SONY

4-262-201-**02**(1)

# ホームシアターシステム

## 取扱説明書

## HT-SS380

**お買い上げいただきありがとうございます。**

⚠ 警告 **電気製品は、安全のための注意事項を守らないと、火災や人身事故になることがあります。**

この取扱説明書には、事故を防ぐための重要な注意事項と製品の取り扱いかたを示しています。**この取扱説明書をよくお読みのうえ、製品を安全にお使いください。**お読みになったあとは、いつでも見られるところに必ず保管してください。

# ⚠警告 安全のために

ソニー製品は安全に充分配慮して設計されています。しかし、電気製品はすべて、間違った使いかたをすると、火災や感電などにより人身事故になることがあり危険です。事故を防ぐために次のことを必ずお守りください。

## 安全のための注意事項を守る

3～5ページの注意事項をよくお読みください。製品全般の注意事項が記載されています。6ページの「使用上のご注意」もあわせてお読みください。

## 定期的に点検する

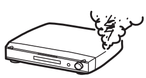
設置時や1年に1度は、電源コードに傷みがないか、コンセントと電源プラグの間にほこりがたまっていないか、プラグがしっかり差し込まれているか、などを点検してください。

## 故障したら使わない

動作がおかしくなったり、キャビネットや電源コードなどが破損しているのに気づいたら、すぐにお買い上げ店またはソニーサービス窓口に修理をご依頼ください。

## 万一、異常が起きたら

**変な音・においがしたら、煙が出たら**



**❶電源を切る**
**❷電源プラグをコンセントから抜く**
**❸お買い上げ店またはソニーサービス窓口に修理を依頼する**

### 警告表示の意味

取扱説明書および製品では、次のような表示をしています。表示の内容をよく理解してから本文をお読みください。

**⚠危険**

この表示の注意事項を守らないと、火災・感電・破裂などにより死亡や大けがなどの人身事故が生じます。

**⚠警告**

この表示の注意事項を守らないと、火災・感電などにより死亡や大けがなど人身事故の原因となります。

**⚠注意**

この表示の注意事項を守らないと、感電やその他の事故によりけがをしたり周辺の家財に損害を与えたりすることがあります。

#### 注意を促す記号

火災　感電

#### 行為を禁止する記号

禁止　分解禁止
接触禁止　ぬれ手禁止

#### 行為を指示する記号

指示　プラグをコンセントから抜く

⚠警告

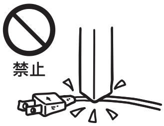



**下記の注意事項を守らないと火災・感電により死亡や大けがの原因となります。**

## 電源コードを傷つけない

電源コードを傷つけると、火災や感電の原因となります。

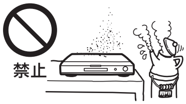
- 設置時に、製品と壁や棚との間にはさみ込んだりしない。
- 電源コードを加工したり、傷つけたりしない。
- 重いものをのせたり、引っ張ったりしない。
- 熱器具に近づけない。加熱しない。
- 移動させるときは、電源プラグを抜く。
- 電源コードを抜くときは、必ずプラグを持って抜く。




➡万一、電源コードが傷んだら、お買い上げ店またはソニーサービス窓口に交換をご依頼ください。

## 湿気やほこり、油煙、湯気の多い場所や、直射日光のあたる場所には置かない

上記のような場所に置くと、火災や感電の原因となることがあります。特に風呂場などでは絶対に使用しないでください。




## 内部に水や異物が入らないようにする

水や異物が入ると火災や感電の原因となります。本機の上に花瓶などの水の入ったものを置かないでください。また、本機を水滴のかかる場所に置かないでください。

➡万一、水や異物が入ったときは、すぐに本体の電源ボタンを切り、電源プラグをコンセントから抜き、お買い上げ店またはソニーサービス窓口にご相談ください。




## キャビネットを開けたり、分解や改造をしない

火災や感電、けがの原因となることがあります。

➡内部の点検や修理はお買い上げ店またはソニーサービス窓口にご依頼ください。



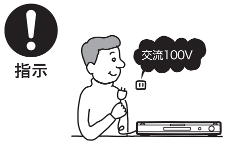

## 雷が鳴りだしたら、本体や電源プラグに触れない

感電の原因となります。



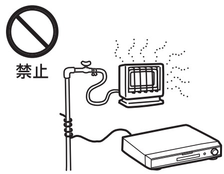

## 本機を日本国外で使わない

交流100 Vの電源でお使いください。海外など、異なる電源電圧の地域で使用すると、火災・感電の原因となります。




## ガス管にアース線やアンテナ線をつながない

火災や爆発の原因となります。



# ⚠注意

**下記の注意事項を守らないとけがをしたり周辺の家財に損害を与えたりすることがあります。**

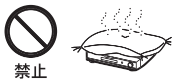
## ぬれた手で電源プラグにさわらない

感電の原因となることがあります。




## 風通しの悪い所に置いたり、通風孔をふさいだりしない

布をかけたり、毛足の長いじゅうたんや布団の上または壁や家具に密接して置いて、通風孔をふさぐなど、自然放熱の妨げになるようなことはしないでください。過熱して火災や感電の原因となることがあります。




## 大音量で長時間つづけて聞かない

耳を刺激するような大きな音量で長時間つづけて聞くと、聴力に悪い影響を与えることがあります。

➡ 呼びかけられたら気がつくくらいの音量で聞きましょう。




## 安定した場所に置く

ぐらついた台の上や傾いたところなどに置くと、製品が落ちてけがの原因となることがあります。また、置き場所、取り付け場所の強度も充分に確認してください。




## 電源プラグは抜き差ししやすいコンセントに接続する

異常が起きた場合にプラグをコンセントから抜いて、完全に電源が切れるように、電源プラグは容易に手の届くコンセントにつないでください。通常、本体の電源ボタンを切っただけでは、完全に電源から切り離せません。




## コード類は正しく配置する

電源コードやAVケーブルは足にひっかけると機器の落下や転倒などにより、けがの原因となることがあります。充分に注意して接続、配置してください。




## 移動させるとき、長期間使わないときは、電源プラグを抜く

長期間使用しないときは安全のため電源プラグをコンセントから抜いてください。絶縁劣化、漏電などにより火災の原因となることがあります。




## お手入れの際、電源プラグを抜く

電源プラグを差し込んだままお手入れをすると、感電の原因となることがあります。



## 電池についての安全上のご注意

**液漏れ・破裂・発熱**による**大けが**や**失明**を避けるため、下記の注意事項を必ずお守りください。

### ⚠危険

### 電池の液が漏れたときは

**素手で液をさわらない**

電池の液が目に入ったり、身体や衣服につくと、失明やけが、皮膚の炎症の原因となることがあります。




液の化学変化により、時間がたってから症状が現れることもあります。

**必ず次の処理をする**




➡液が目に入ったときは、目をこすらず、すぐに水道水などのきれいな水で充分洗い、ただちに医師の治療を受けてください。

➡液が身体や衣服についたときは、すぐにきれいな水で充分洗い流してください。皮膚の炎症やけがの症状があるときは、医師に相談してください。

### ⚠警告

**電池は乳幼児の手の届かない所に置く**




➡電池は飲み込むと、窒息や胃などへの障害の原因となることがあります。

➡万一、飲み込んだときは、ただちに医師に相談してください。

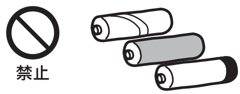
**電池を火の中に入れない、加熱・分解・改造・充電しない、水でぬらさない**

破裂したり、液が漏れたりして、けがややけどの原因となることがあります。




**指定以外の電池を使わない、新しい電池と使用した電池または種類の違う電池を混ぜて使わない**

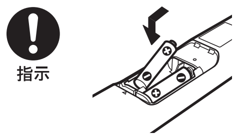
電池の性能の違いにより、破裂したり、液が漏れたりして、けがややけどの原因となることがあります。




**＋とーの向きを正しく入れる**

＋とーを逆に入れると、ショートして電池が発熱や破裂をしたり、液が漏れたりして、けがややけどの原因となることがあります。

➡機器の表示に合わせて、正しく入れてください。



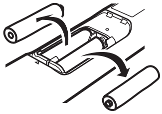

次のページへつづく

### 使い切ったときや、長時間使用しないときは、電池を取り出す

電池を入れたままにしておくと、過放電により液が漏れ、けがややけどの原因となることがあります。



指示



# 使用上のご注意

### 設置場所について

次のような場所には置かないでください。

- ぐらついた台の上や不安定な所。
- じゅうたんや布団の上。
- 湿気の多い所、風通しの悪い所。
- ほこりの多い所。
- 直射日光が当たる所、温度が高い所。
- 極端に寒い所。
- チューナーやテレビ、ビデオデッキから近い所。（チューナーやテレビ、ビデオデッキといっしょに使用するとき、近くに置くと、雑音が入ったり、映像が乱れたりすることがあります。特に室内アンテナのときに起こりやすいので屋外アンテナの使用をおすすめします。）
- 電子レンジや大きなスピーカーなど、強力な磁気を発するものの近く。

### 設置時のご注意

本機の上に重いものを置かないでください。

### 音量を調整するときは

ディスクはレコードと比べ、非常に雑音が少なくなっています。レコードをかけるときのように音声の入っていない部分の雑音を聞きながら音量を調整すると、思わぬ大きな音が出て、スピーカーを破損するおそれがあります。
演奏を始める前には、音量を必ず小さくしておきましょう。

### ステレオを聞くときのエチケット

ステレオで音楽をお楽しみになるときは、隣近所に迷惑がかからないような音量でお聞きください。特に、夜は小さめな音でも周囲にはよく通るものです。
窓を閉めたり、ヘッドホンをご使用になるなどお互いに心を配り、快い生活環境を守りましょう。このマークは音のエチケットのシンボルマークです。



## 本機のお手入れのしかた

- キャビネットやパネル面の汚れは、中性洗剤を少し含ませた柔らかい布で拭いてください。研磨用パッドや研磨剤、シンナーやベンジン、アルコールなどは表面を傷めますので使わないでください。
- 油や指紋で汚れた場合、表面に軽く息を吹きかけ、乾いた柔らかい布で拭いてください。

## テレビ画面に色むらが起きたら

本機のスピーカーによりテレビ画面に色むらが起きた場合は、テレビの電源を切り、15～30分後に再びスイッチを入れてください。それでも色むらが残るときは、スピーカーをさらにテレビから離してください。

# この取扱説明書について

- この取扱説明書では、HT-SS380の操作方法を説明しています。
- この取扱説明書では、付属のリモコンを使った本機の操作のしかたを説明しています。本機にリモコンと同じ名前のボタンまたは類似のボタンがある場合、本機のボタンでも同様に操作できます。

### HT-SS380の構成

| | |
|---|---|
| • AVレシーバー | STR-KS380 |
| • スピーカーシステム* | |
| – フロント／サラウンドスピーカー | SS-TSB105 |
| – センタースピーカー | SS-CTB102 |
| – サブウーファー | SS-WSB103 |

* スピーカーは必ず付属のものをご使用ください。

# 商標について

本機はドルビー *デジタルデコーダーおよびドルビープロロジック（II）アダプティブマトリックスサラウンドデコーダー、MPEG-2 AAC（LC）デコーダー、DTS**デコーダーを搭載しています。

* ドルビーラボラトリーズからの実施権に基づき製造されています。Dolby、ドルビー、Pro Logic、“AAC”ロゴ及びダブルD記号はドルビーラボラトリーズの商標です。

** 米国特許番号5,451,942; 5,956,674; 5,974,380; 5,978,762; 6,226,616; 6,487,535; 7,212,872; 7,333,929; 7,392,195; 7,272,567、その他米国および世界各国で特許申請中の実施権に基づき製造されています。DTS、DTS-HDおよびそのシンボルマークは登録商標です。またDTS-HD Master AudioおよびDTSロゴはDTS社の商標です。「製品」にはソフトウェアも含まれます。© DTS, Inc. All Rights Reserved.

本機は、High-Definition Multimedia Interface（HDMI™）技術を搭載しています。HDMI、HDMIロゴ、およびHigh-Definition Multimedia Interfaceは、HDMI Licensing LLCの米国およびその他の国における商標または登録商標です。

“x.v.Color”および “x.v.Color”ロゴ は、ソニー株式会社の商標です。

“ブラビアリンク”および“BRAVIA Link”ロゴ は、ソニー株式会社の登録商標です。

“プレイステーション”は株式会社ソニー・コンピュータエンタテインメントの登録商標です。

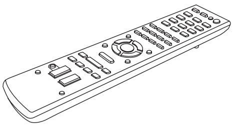
# 目次

# 同梱品

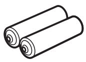
- 取扱説明書（本書）
- 接続・設定ガイド（1）
- 保証書（1）
- ソニーご相談窓口のご案内（1）
- 製品登録のおすすめ（1）
- FMワイヤーアンテナ（1）



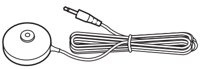
- リモコン（RM-AAU115）（1）



- 単3乾電池（2）



- 測定用マイク（ECM-AC2）（1）

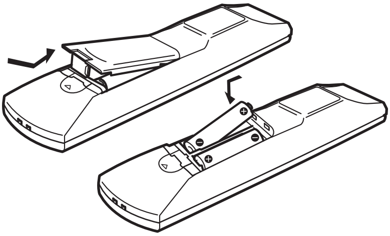


# 付属スピーカー

- フロントスピーカー（2）
- センタースピーカー（1）
- サラウンドスピーカー（2）
- サブウーファー（1）

## リモコンに電池を入れる

⊕と⊖の向きを合わせて、リモコンの電池ホルダーに単3乾電池（付属）2本を入れます。

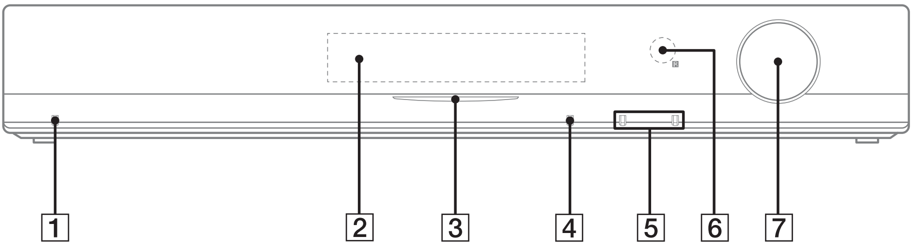


**ご注意**

- 高温、多湿の場所を避けて保管してください。
- 新しい乾電池と使用途中の乾電池を混ぜて使わないでください。
- マンガン乾電池と、種類の違う乾電池を混ぜて使わないでください。
- リモコン受光部に直射日光や照明などの光があたらないようにしてください。故障の原因となります。
- 長い間リモコンを使わないときは、液漏れや腐食を防ぐため、乾電池を取り出してください。
- 電池を交換したときや取り外したときに、リモコンにプログラムした内容がリセットされ、初期状態になる場合があります。その場合は、再登録してください（42ページ）。
- リモコンで本機を操作できなくなったら、新しい乾電池に交換してください。

# 各部の名前と働き

## 本体前面




1 **I/⏻（電源オン／スタンバイ）（26、30、43ページ）**

2 **表示窓（10ページ）**

3 **ホワイトランプ**
本機の電源がオンのときに点灯します。DIMMERがDIM MAXに設定されているとき（47ページ）、または本機の電源がオフのときに消灯します。

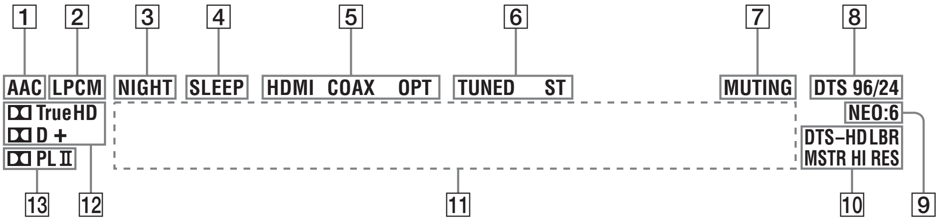
4 **SOUND FIELD （35ページ）**

5 **INPUT +/– （28ページ）**

6 **リモコン受光部**
リモコンからの信号を受信します。

7 **MASTER VOLUMEつまみ（31、49ページ）**

## 表示窓に点灯する項目と働き




1 **AAC**
MPEG-2 AAC信号が入力されたときに点灯します。

**ご注意**
MPEG-2 AACは、アルゴリズムの一種で、LC（Low Complexity）にのみ対応しています。

2 **LPCM**
リニアPCM音声信号をデコードしているときに点灯します。

3 **NIGHT**
ナイトモード機能がオンに設定されているときに点灯します（46ページ）。

4 **SLEEP**
スリープタイマーがオンに設定されているときに点灯します（47ページ）。

5 **入力表示**
現在、本機に入力されている信号が点灯します。

**HDMI**
– INPUT MODEを「AUTO」に設定していて、HDMI IN端子に接続した機器が認識されているとき（22ページ）。
– HDMI TV OUT端子に接続したテレビからオーディオリターンチャンネル（ARC）の信号が入力されているとき（41ページ）。

**COAX**
VIDEO入力が選択されているとき。

**OPT**
– INPUT MODEを「AUTO」に設定していて、デジタル信号がOPT IN端子から入力されているとき（21ページ）。
– INPUT MODEを「OPT」に設定しているとき（46ページ）。

6 **チューナー表示**
現在聞いているラジオの状況が点灯します（32ページ）。

**TUNED**
ラジオを聞いているとき。

**ST**
ステレオ放送を聞いているとき。

7 **MUTING**
消音機能がオンに設定されているときに点灯します。

8 **DTS表示**
DTS信号をデコードしているときに、該当するフォーマットの表示が点灯します。

| | |
|---|---|
| **DTS** | DTS |
| **DTS 96/24** | DTS 96 kHz/24 bit |

**ご注意**
DTSフォーマットのディスクを再生するときは、デジタル接続が完了していることを確認してください。

9 **NEO:6**
DTS Neo:6 Cinema/Music処理を行っているときに点灯します（36ページ）。

10 **DTS-HD表示**
DTS-HD信号をデコードしているときに、該当するフォーマットの表示が点灯します。

| | |
|---|---|
| **DTS-HD LBR** | DTS-HD Low Bit Rate Audio |
| **DTS-HD MSTR** | DTS-HD Master Audio |
| **DTS-HD HI RES** | DTS-HD High Resolution Audio |

11 **メッセージ表示エリア**
音量レベル、選択した入力、音声入力信号などが表示されます。

12 **ドルビーデジタルサラウンド表示**
ドルビーデジタルフォーマットの信号をデコードしているときに、該当するフォーマットが点灯します。

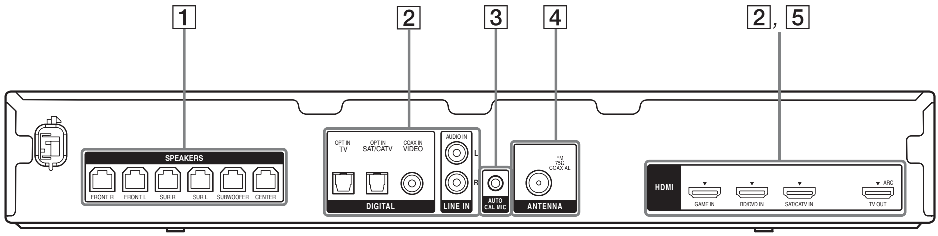
| | |
|---|---|
| **DD TrueHD** | Dolby TrueHD |
| **DD D** | Dolby Digital |
| **DD D+** | Dolby Digital Plus |

**ご注意**
ドルビーデジタルフォーマットのディスクを再生するときは、デジタル接続が完了していることを確認してください。

13 **ドルビープロロジック表示**
ドルビープロロジック処理をしているときに、該当するフォーマットの表示が点灯します。マトリックスサラウンドデコード技術によって、入力信号を拡張します。

| | |
|---|---|
| **DD PL** | Dolby Pro Logic |
| **DD PLII** | Dolby Pro Logic II |

# 本体後面




1 **スピーカー出力部（20ページ）**



2 **音声入出力部**
**デジタル入出力端子（21、24ページ）**

 OPT IN

 COAX IN

 HDMI IN/OUT

**アナログ入力端子（25ページ）**

 AUDIO IN

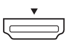
3 **自動音場補正入力部（27ページ）**

 AUTO CAL MIC端子

4 **アンテナ入力部（25ページ）**

 FMアンテナ端子

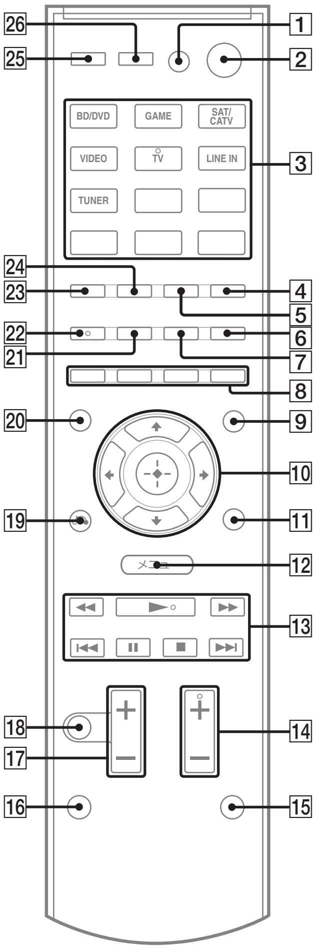
5 **映像入出力部（24ページ）**

 HDMI IN/OUT端子

## リモコン

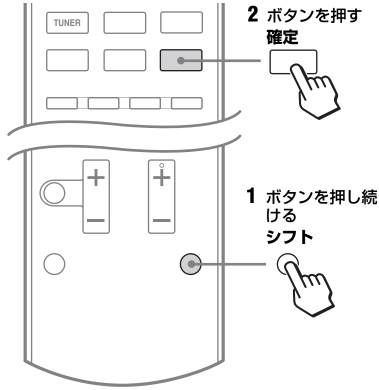
付属のリモコンを使って、本機や他の機器の操作ができます。リモコンのボタンには、ソニー製機器用の操作があらかじめ登録されています。入力ボタンを再登録すれば、本機に接続している他の機器を操作することができます（42ページ）。

### RM-AAU115




### ピンクで印字されたボタンの使いかた

シフトボタン（15）を押しながら、ピンクで印字された使いたい機能のボタンを押します。
例：シフトボタン（15）を押しながら、確定ボタン（3）を押す。




## 本機を操作するには

**2 電源*（オン／スタンバイ）**
本機の電源を入れる、または、スタンバイモードにします。

**スタンバイモード中に消費電力を抑えるには**
「CTRL HDMI」を「CTRL OFF」に設定します（44ページ）。

**3 入力切り換えボタン****
ご使用になりたい機器を選択します。入力切り換えボタンを押すと、本機の電源が入ります。各ボタンには、ソニー製機器用の操作があらかじめ登録されています。

**数字ボタン****
シフトボタン（15）を押しながら、数字ボタンを押すと、FMチューナーのプリセット番号や周波数の入力ができます（33ページ）。

**確定**
シフトボタン（15）を押しながら、確定ボタンを押すと、次の操作ができます。
– 選択を確定します。
– ラジオを聞いているときに放送局を登録します。

次のページへつづく

**4 ダイレクトチューニング**
数字ボタンで聞きたい放送局の周波数を選んで、放送局を受信できます（33ページ）。

**5 メモリー**
ラジオを聞いているときに放送局を登録します。

**6 画面表示**
アンプメニューボタンを押して画面表示ボタンを押すと、表示窓に表示される情報を切り換えることができます（31ページ）。

**9 アンプメニュー**
アンプメニューを表示窓に表示させます。

**10 ⊕、↑/↓/←/→**
↑/↓/←/→ボタンを押して項目を選び、⊕ボタンを押して選択を確定します。

**13 選局+/–**
放送局を選局します（32ページ）。

**プリセット+/–**
登録した放送局を選択します（33ページ）。

**14 サウンドフィールド+**/–**
サウンドフィールドを選択します（35ページ）。

**15 シフト**
リモコンボタンの機能を切り換えて、ピンクで印字されたボタンを有効にします（13ページ）。

**17 音量+/–**
すべてのスピーカーの音量を同時に調節します。

**18 消音**
一時的に消音するときに押します。
消音機能を解除する場合は再度消音ボタンを押します。

**19 戻る**
前のメニューに戻ります。

**25 自動音量**
接続された機器からの入力信号やコンテンツに応じて自動的に音量を調節します（アドバンスドオートボリューム機能）。
この機能は、例えばコマーシャルの音量がテレビ番組よりも大きい場合に役立ちます。

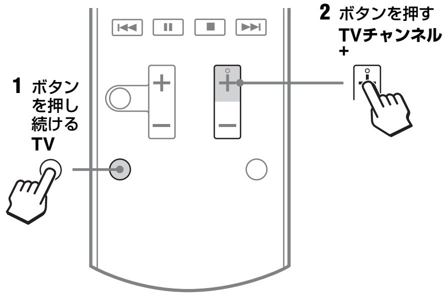
**ご注意**
- この機能をオフにする場合は、音量レベルを下げてから行うようにしてください。
- この機能は、入力信号がドルビーデジタル、AAC、DTS、またはリニアPCMの場合にのみ有効です。他のフォーマットに切り換えると、急に音が大きくなることがあります。
- この機能は、以下の場合は機能しません。
  – サンプリング周波数が48 kHzより高いリニアPCM信号を受信している場合。
  – 受信している信号のフォーマットが、Dolby Digital Plus、Dolby TrueHD、DTS 96/24、DTS-HD Master Audio、またはDTS-HD High Resolution Audioの場合。

* AV電源ボタン（1）と電源ボタン（2）を同時に押すと、本機と接続された機器の電源を同時に切ります（システムスタンバイ）。入力切り換えボタン（3）を押すたびに、AV電源ボタン（1）の機能は自動的に切り換わります。

** 数字ボタンの5/TV、音声切換、►およびTVチャンネル／サウンドフィールドの+には、凸点（突起）が付いています。
操作の目印としてお使いください。

## ソニー製テレビを操作するには

TVボタン（16）を押しながら、黄色で印字されたボタンを押します。
例：TVボタン（16）を押しながら、TVチャンネル+ボタン（14）を押す。




**1 TV電源（オン／スタンバイ）**
テレビの電源をオン／オフします。

**3 数字ボタン****
テレビのチャンネルを選択します。

**確定**
選択を確定します。

**クリア**
数字ボタンと組み合わせて、ケーブルテレビチューナーのチャンネル番号を選択します。例えば、「2.1」を選択する場合、2を押して、クリアボタンを押し、1を押します。

**4 CS**
110度CSデジタル放送に切り換えます（押すたびにCS1/CS2が切り換わります）。

**5 BS**
BSデジタル放送に切り換えます。

**6 画面表示**
現在のテレビ番組に関する情報を表示します。

***d*（連動データ放送）**
シフトボタン（15）を押しながら、***d***ボタンを押すと、デジタル放送の連動データのオン／オフが切り換わります。

**8 カラーボタン**
カラーボタンを使用するときは、テレビ画面のガイドを表示してください。
テレビ画面に表示されたガイドに従って操作してください。

**11 ツール／オプション**
テレビのオプションメニューを表示します。

**12 メニュー／ホーム**
テレビのメニューを表示します。

**14 TVチャンネル+**/–**
登録したテレビチャンネルを切り換えます。

**17 音量+/–**
テレビの音量を調節します。

**18 消音**
テレビの消音機能を有効にします。

**19 戻る**
テレビの前のメニューに戻ります。

**20 番組表**
オンスクリーンガイド（番組表）を表示します。

**22 音声切換****
二重音声放送時などにお好みの音声モードに切り換えます。

**23 地上アナログ**
地上アナログ放送に切り換えます。

**24 地上デジタル**
地上デジタル放送に切り換えます。

**26 入力切換**
入力を切り換えます（テレビ、またはビデオ）。

* AV電源ボタン（1）と電源ボタン（2）を同時に押すと、本機と接続された機器の電源を同時に切ります（システムスタンバイ）。入力切り換えボタン（3）を押すたびに、AV電源ボタン（1）の機能は自動的に切り換わります。
**数字ボタンの5/TV、音声切換、►およびTVチャンネル／サウンドフィールドの+には、凸点（突起）が付いています。
操作の目印としてお使いください。

次のページへつづく

## 他のソニー製機器を操作するには

シフトボタン（15）を押しながら、ピンクで印字されたボタンを押します（13ページ）。

| 名称 | | ブルーレイディスクレコーダー、DVDプレーヤー | 衛星放送チューナー、ケーブルテレビチューナー | ビデオデッキ | CDプレーヤー |
|---|---|---|---|---|---|
| 1 | **AV電源*** | 電源 | 電源 | 電源 | 電源 |
| 3 | **数字ボタン**** | トラック | チャンネル | チャンネル | トラック |
| | **確定** | 確定 | 確定 | 確定 | 確定 |
| | **クリア** | クリア | クリア | – | トラック>10 |
| 6 | **画面表示** | 画面表示 | 画面表示 | 画面表示 | 画面表示 |
| 7 | **映像切換** | アングル切換 | – | – | – |
| 8 | **カラーボタン** | メニュー、ガイド | メニュー、ガイド | – | – |
| 10 | ⊕ | 確定 | 確定 | 確定 | – |
| | ↑/↓/←/→ | 選択 | 選択 | 選択 | – |
| 11 | **ツール／オプション** | オプションメニュー | オプションメニュー | – | – |
| 12 | **メニュー／ホーム** | メニュー | メニュー | メニュー | – |
| 13 | ◀◀/▶▶ | 前／次のトラックをサーチ | – | 早戻し／早送り | 早戻し／早送り |
| | ▶** | 再生 | – | 再生 | 再生 |
| | ⏮/⏭ | トラックをスキップ | – | インデックスをサーチ | トラックをスキップ |
| | ❚❚ | 一時停止 | – | 一時停止 | 一時停止 |
| | ■ | 停止 | – | 停止 | 停止 |
| 19 | **戻る** ↶ | 戻る | 戻る、閉じる、ライブTV | – | – |
| 20 | **番組表** | 番組表 | ガイドメニュー | – | – |
| 21 | **字幕** | 字幕 | – | – | – |
| 22 | **音声切換**** | 音声 | – | – | – |
| 23 | **トップメニュー** | オンスクリーンガイド | – | – | – |
| 24 | **ポップアップ／メニュー** | メニュー | – | – | – |
| 26 | **入力切換** | 入力選択 | – | 入力選択 | – |

* AV電源ボタン（1）と電源ボタン（2）を同時に押すと、本機と接続された機器の電源を同時に切ります（システムスタンバイ）。入力切り換えボタン（3）を押すたびに、AV電源ボタン（1）の機能は自動的に切り換わります。

** 数字ボタンの5/TV、音声切換、▶およびTVチャンネル／サウンドフィールドの+には、凸点（突起）が付いています。操作の目印としてお使いください。

### ご注意

- 機能の説明は、例としてあげています。
- お持ちの機器によっては、付属のリモコンで上記の操作ができなかったり、説明されているとおりに動かない場合があります。

# はじめに

次の簡単な手順で、本機に各種のオーディオ機器／映像機器を接続してお楽しみいただけます。

**スピーカーの設置と接続を行う（18、20ページ）**

↓

**テレビを接続する（21ページ）**

↓

**映像機器を接続する（22ページ）**

↓

**オーディオ機器を接続する（25ページ）**

↓

**接続した機器の音声出力を設定する**
マルチチャンネルのデジタル音声を出力するために、接続した機器のデジタル音声出力設定を確認します。
ブルーレイディスクレコーダーの場合、「音声（HDMI）」、「ドルビーデジタル（同軸/光）」、および「DTS（同軸/光）」がそれぞれ「自動」、「ドルビーデジタル」、「DTS」に設定されていることを確認してください（2010年9月現在）。
プレイステーション3の場合、「BD/DVD音声出力フォーマット（HDMI）」が「ビットストリーム」に設定されていることを確認してください（システムソフトウェアのバージョンが3.5の場合）。
詳しくは、接続した機器の取扱説明書をご覧ください。

↓

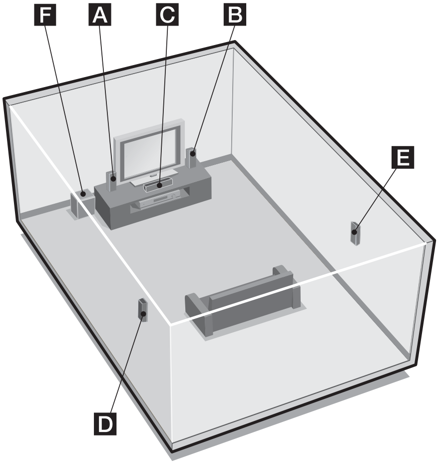
**本機を準備する**
「7：電源コードを接続する」（26ページ）と「本機を初期設定状態にする」（26ページ）をご覧ください。

↓

**自動でスピーカー設定をする（28ページ）**
「テストトーン」を使用して、スピーカー接続を確認できます（44ページ）。音声が正しく出力されない場合、スピーカー接続を確認して、上記で説明されている設定をもう一度実行します。

# 1：スピーカーを設置する

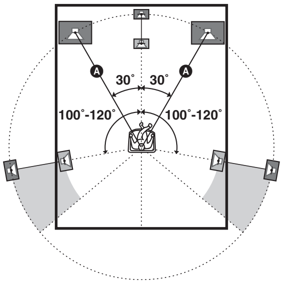
本機では最大5.1チャンネルのスピーカーシステムを構成できます。映画館のようなマルチチャンネル音声を十分にお楽しみいただくには、付属するすべてのスピーカー（フロントスピーカー：2本、センタースピーカー：1本、サラウンドスピーカー：2本）とサブウーファー（5.1チャンネル）を接続する必要があります。
次の図のようにスピーカーを設置します。




A フロントスピーカー（左）
B フロントスピーカー（右）
C センタースピーカー
D サラウンドスピーカー（左）
E サラウンドスピーカー（右）
F サブウーファー

### ちょっと一言

- Aの角度を同じにします。

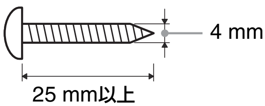


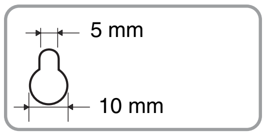

- サブウーファーには指向性がありませんので、お好みの場所に設置できます。

## スピーカーを壁に設置する

スピーカーを壁に取り付けられます。

**1** 各スピーカー背面のフック部に合うネジ（別売り）を用意する。
下図をご確認ください。

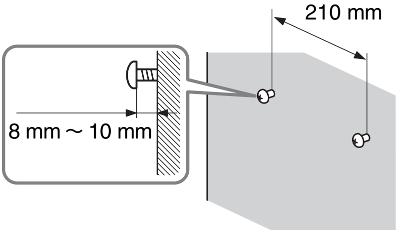


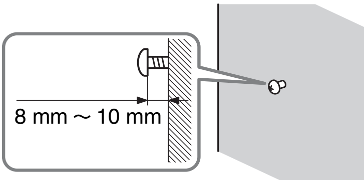

スピーカー背面のフック部

**2** **ネジを壁に取り付ける。ネジは完全に絞めずに、8 mm〜10 mmほど壁から突き出した状態にする。**

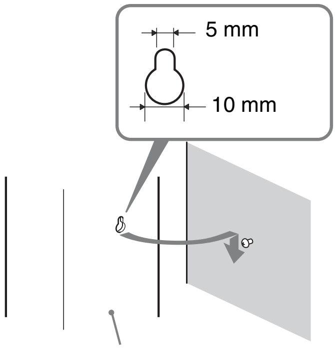
**センタースピーカーの場合**




**フロントスピーカー／サラウンドスピーカーの場合**




**3** **スピーカーをネジに掛ける。**

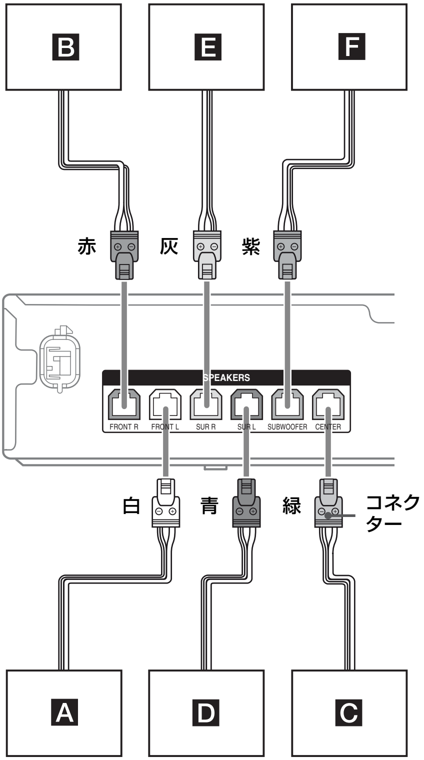



**ご注意**

- 壁の材質や強度に合うネジを使ってください。石こうの壁は非常にもろいので、はりの部分にしっかりとネジを取り付け、壁に固定します。補強材の施された垂直で平らな壁にスピーカーを設置します。
- 壁の材質や使用するネジについては、ネジの販売店や設置業者にお問い合わせください。
- ソニーは、設置方法が適切でない場合、壁の強度が十分でない場合、ネジの取り付けが適切でない場合、その他自然災害などの場合に生じた事故や損傷については責任を負いません。

# 2：スピーカーを接続する

ケーブル類を接続するときは、必ず電源コードをコンセントから抜いてください。
スピーカーコードのコネクターは、スピーカーの種類によって色分けされています。
本機のSPEAKERS端子の色に合うようにスピーカーコードを接続してください。



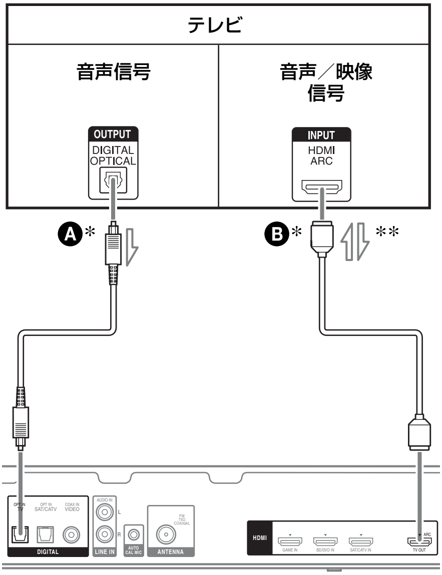

**A** フロントスピーカー（左）
**B** フロントスピーカー（右）
**C** センタースピーカー
**D** サラウンドスピーカー（左）
**E** サラウンドスピーカー（右）
**F** サブウーファー

**ご注意**
スピーカーを正しく接続するには、スピーカーの背面にあるスピーカーラベルを参照してスピーカーの種類を確認してください。サブウーファーには、スピーカーラベルがありません。スピーカーの種類について詳しくは、7ページをご覧ください。

| スピーカーラベルの文字 | スピーカーの種類 |
|---|---|
| FRONT L | フロント（左） |
| FRONT R | フロント（右） |
| CENTER | センター |
| SUR L | サラウンド（左） |
| SUR R | サラウンド（右） |

# 3：テレビを接続する

テレビをHDMI TV OUT端子に接続すると、選択した入力の映像を見ることができます。
ケーブル類を接続するときは、必ず電源コードをコンセントから抜いてください。




**Ⓐ光デジタル音声コード（別売り）**
**ⒷHDMIケーブル（別売り）**
**ソニー製HDMIケーブルまたは正規のHDMIケーブルを推奨します。**

* 本機に接続したスピーカーからテレビのマルチチャンネルサラウンドサウンド放送を楽しむには、次のいずれかの接続を行ってください。
– Ⓐに接続する。
– Ⓑに接続する（お持ちのテレビがオーディオリターンチャンネル（ARC）に対応している場合）。
テレビは音量を最小にするか、消音機能で消音してください。

**本機はオーディオリターンチャンネル（ARC）に対応しています。本機をオーディオリターンチャンネル（ARC）に対応したテレビに接続している場合、テレビの音声がHDMI TV OUT端子を通して、本機に接続したスピーカーに出力されます。HDMIメニューの「ARC」を「ARC ON」に設定してください（41ページ）。

### ご注意

- 再生機器の映像や音声を、本機を通してテレビに出力している場合は、本機の電源を入れてください。電源が入っていないと、映像も音声も伝送されません。
- テレビとアンテナの接続状態によっては、テレビの映像が乱れることがあります。この場合、アンテナを本機から離して設置してください。
- 光デジタル音声コードを接続するときは、カチッと音がするまでまっすぐにプラグを差し込んでください。
- 光デジタル音声コードを折り曲げたり、結んだりしないでください。

### ちょっと一言

- 本機のデジタル音声入力端子はすべて、32 kHz、44.1 kHz、48 kHz、96 kHzのサンプリング周波数に対応しています。
- テレビの音声出力端子と本機のTV OPT IN端子を接続して、本機に接続したスピーカーからテレビの音声を出力する場合、テレビの音声出力端子が「固定」と「可変」で切り換え可能であれば、「固定」に設定してください。

# 4：映像機器を接続する

## HDMIを使って接続する

HDMIとはHigh-Definition Multimedia Interfaceの略で、映像信号と音声信号をデジタルで伝送するインターフェースです。
“ブラビアリンク”機能に対応しているソニー製品をHDMIケーブルで接続すると、操作を簡単に行うことができます。「“ブラビアリンク”機能を使う」（37ページ）をご覧ください。

### HDMI接続でできること

- 本機では、HDMIで転送されたデジタル音声信号をスピーカーから出力できます。ドルビーデジタル、DTS、リニアPCM、AACの各フォーマットに対応しています。
- 本機は、マルチチャンネルリニアPCM（サンプリング周波数192 kHz以下）で、8チャンネルまでのデジタル音声信号を、HDMIを使った伝送で受信することができます。
- High Bitrate Audio（DTS-HD Master Audio、Dolby TrueHD）、Deep Color、x.v.Color、3D伝送に対応しています。

### HDMI端子の接続のご注意

- HDMI IN端子に入力された音声信号は、SPEAKERS端子とHDMI TV OUT端子から出力することができます。他の音声端子からは出力されません。
- HDMI IN端子に入力された映像信号は、HDMI TV OUT端子からのみ出力されます。
- スーパーオーディオCDのDSD信号は入出力されません。
- HDMI端子からの音声信号（サンプリング周波数、ビット長など）は、接続した機器により制限されることがあります。HDMIケーブルで接続した機器の映像がきれいに映らなかったり、音がでないときは、接続した機器側の設定をご確認ください。
- 再生機器から出力される音声のサンプリング周波数やチャンネル数、音声フォーマットが切り換わったときに、音声が途切れる場合があります。
- 接続した機器が著作権保護技術（HDCP）に対応していないために、本機のHDMI TV OUT端子からの映像や音声が乱れたり再生できない場合があります。
  このような場合、接続した機器の仕様をご確認ください。
- High Bitrate Audio（DTS-HD Master Audio、Dolby TrueHD）やマルチチャンネルリニアPCMは、HDMI接続を行っている場合にのみお楽しみいただけます。
- High Bitrate Audio（DTS-HD Master Audio、Dolby TrueHD）を楽しむには、再生機器の映像解像度を720p/1080i以上に設定してください。
- マルチチャンネルリニアPCMを楽しむには、再生機器の映像解像度の設定が必要な場合があります。再生機器の取扱説明書をご確認ください。
- 3D映像を楽しむには、3D表示に対応したテレビおよび映像機器（ブルーレイディスクレコーダー、プレイステーション3など）と本機をHDMIケーブルでつなぎ、3Dメガネを装着したうえで、3D対応のブルーレイディスクなどを再生してください。
- テレビおよび映像機器の仕様によっては、3D表示できない場合があります。
- 各HDMI機器は、表記されているHDMIのVersionで定義されている機能をすべて包括しているものではありません。例えば、HDMI Version 1.4対応機器が、すべてオーディオリターンチャンネル（ARC）に対応しているわけではありません。

- 本機に接続した機器について詳しくは、各機器の取扱説明書をご覧ください。

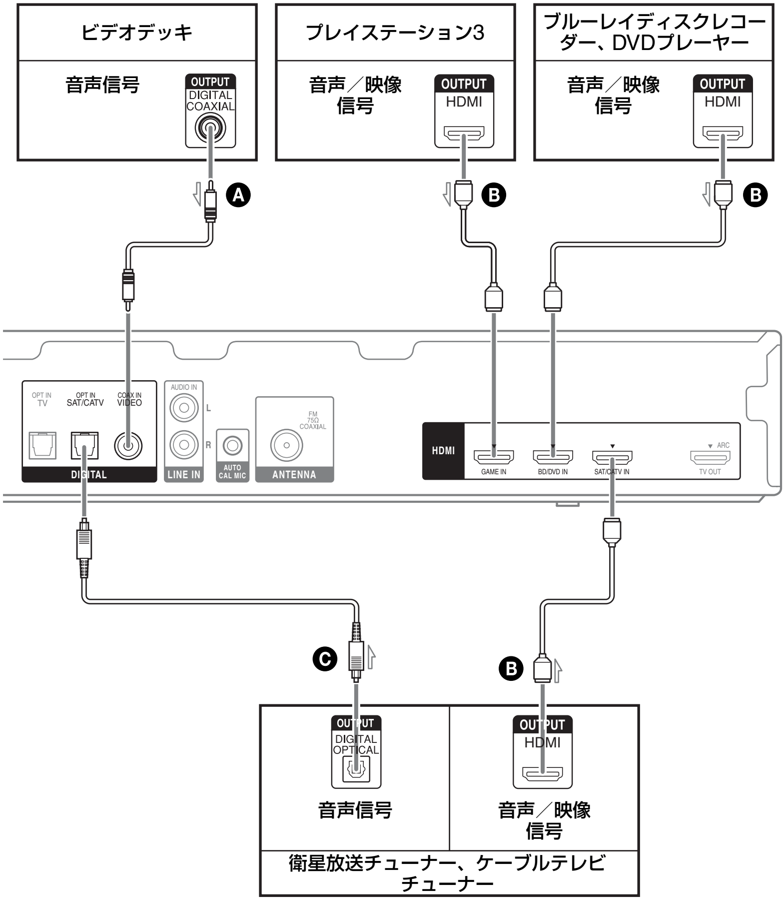
## ケーブル類を接続する

- ケーブル類を接続するときは、必ず電源コードをコンセントから抜いてください。
- すべてのケーブルを接続する必要はありません。接続した機器にある端子に合わせて、接続のしかたを選んでください。
- High Speed HDMIケーブルをご利用ください。Standard HDMIケーブルの場合、1080pやDeep Color、3Dの映像が正しく表示できない場合があります。
- HDMI-DVI変換ケーブルのご使用はおすすめしません。HDMI-DVI変換ケーブルをDVI-D機器に接続した場合、音声や映像が正しく出力されないことがあります。
- 光デジタル音声コードを接続するときは、カチッと音がするまでまっすぐにプラグを差し込んでください。
- 光デジタル音声コードを折り曲げたり、結んだりしないでください。

### ちょっと一言

本機のデジタル音声入力端子はすべて、32 kHz、44.1 kHz、48 kHz、96 kHzのサンプリング周波数に対応しています。

# ビデオデッキ、プレイステーション3、ブルーレイディスクレコーダー、DVDプレーヤー、衛星放送チューナー、ケーブルテレビチューナーを接続する



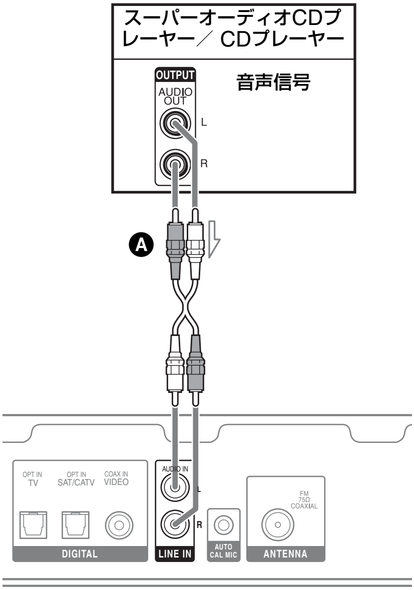

**A** 同軸デジタルコード（別売り）
**B** HDMIケーブル（別売り）
ソニー製HDMIケーブルまたは正規のHDMIケーブルを推奨します。
**C** 光デジタル音声コード（別売り）

### ご注意

- DVDプレーヤーを操作できるように、リモコンのBD/DVD入力ボタンを初期設定から変更してください。詳しくは、「リモコンの入力切り換えボタンの割り当てを変更する」（42ページ）をご覧ください。
- 本機を通してビデオデッキで録画を行うことはできません。詳しくは、ビデオデッキの取扱説明書をご覧ください。

# 5：オーディオ機器を接続する

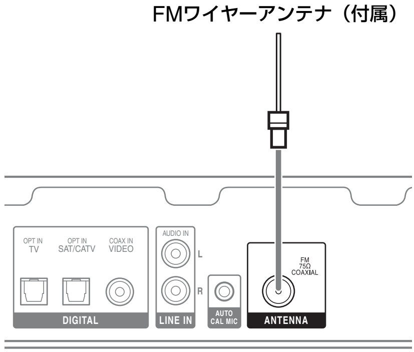
ケーブル類を接続するときは、必ず電源コードをコンセントから抜いてください。




A 音声コード（別売り）

# 6：アンテナを接続する

アンテナを接続する前に、必ず電源コードをコンセントから抜いてください。

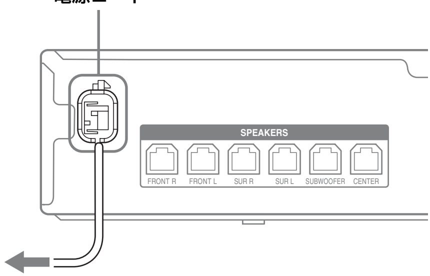



**ご注意**

- FMワイヤーアンテナは束ねたまま使わないでください。
- FMワイヤーアンテナを接続した後は、できるだけ水平に置いてください。

# 7：電源コードを接続する

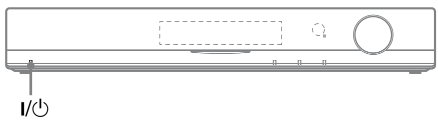
電源コードのプラグを壁のコンセントに接続します。
再生機器の映像や音声を、本機を通してテレビに出力している場合は、本機の電源を入れてください。電源が入っていないと、映像も音声も伝送されません。






# 本機を初期設定状態にする

本機を初めてお使いになるときは、以下の手順で本機を初期設定状態にしてください。また、設定した内容などをお買い上げ時の状態に戻したいときも、以下の手順を行ってください。
本機のボタンを使って操作してください。




**1** **I/⏻（電源）ボタンを押して本機の電源を切る。**

**2** **I/⏻（電源）ボタンを約5秒間押し続ける。**

表示窓に「CLEARING」と表示された後、「CLEARED」が表示されます。
初期設定から変更、調整された設定はすべてリセットされ、初期状態になります。

# 自動音場補正機能を使う

D.C.A.C.（Digital Cinema Auto Calibration（自動音場補正））機能によって、自動的に以下の項目を測定します。
- スピーカーの有無
- スピーカーのレベル
- スピーカーまでの距離
- 周波数特性

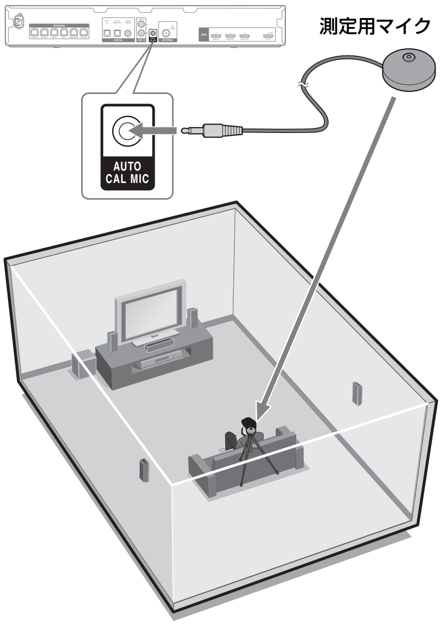
D.C.A.C.機能によって、自動的に最適な音声バランスを設定します。なお、手動でお好みのスピーカーのレベルとバランスを設定することもできます。詳しくは、「スピーカーのレベルを調節するには」（45ページ）をご覧ください。

## 測定の前に

測定の前に、以下についてご確認ください。
- スピーカーの設置と接続をします（18、20ページ）。
- AUTO CAL MIC端子は付属の測定用マイク専用です。他のマイクを接続しないでください。
- スピーカーとマイクの間に障害物があると、正しく測定できません。測定開始前に障害物を取り除いてください。
- 測定音以外の音が入らないように、静かな環境で測定してください。

**ご注意**
- 測定中は大きな測定音が出ます。音量は調整できません。隣近所やお子様への配慮をお願いします。
- 消音機能を設定していても、測定が始まると自動的に解除されます。

## 1：測定の準備をする

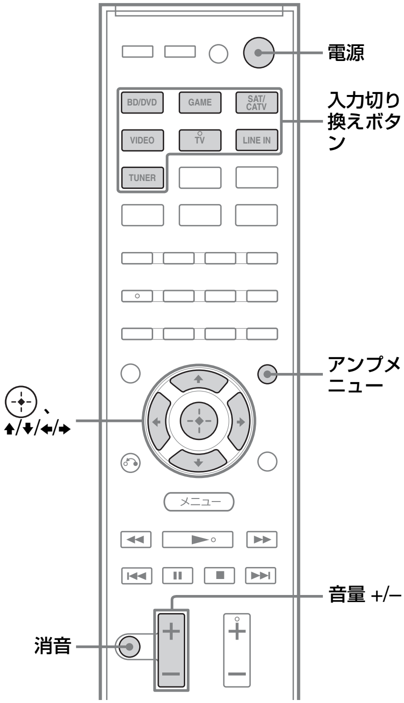



**1** **付属の測定用マイクを、本機のAUTO CAL MIC端子に接続する。**

**2** **マイクを設置する。**

マイクは、実際に視聴する位置に設置します。耳と同じ高さになるように、台や三脚の上に上向きに置くことをおすすめします。

## 2：測定する




**1** アンプメニューボタンを押す。

**2** ↑/↓ボタンを繰り返し押して「**AUTO CAL**」を選択し、⊕ボタンまたは→ボタンを押す。

**3** ↑/↓ボタンを繰り返し押して「**A.CAL START**」を選択し、⊕ボタンを押す。

5秒後に測定が始まります。
測定時間は約30秒です。

表示窓に以下の項目が表示されます。

| 測定項目 | 表示 |
| --- | --- |
| スピーカーの有無 | TONE |
| スピーカーのレベル、距離、周波数特性 | T S P |
| サブウーファーのレベル、距離 | WOOFER |

### 測定を中止するには

測定中に以下の操作をすると、測定が中止されます。

– 電源ボタンを押す。
– リモコンの入力切り換えボタン、または本機のINPUT +/–ボタンを押す。
– 音量レベルを変更する。
– リモコンの消音ボタンを押す。

## 3：測定結果を確認／保存する

### 1 測定結果を確認する。

測定が完了すると終了音が鳴り、表示窓に測定結果が表示されます。

| 測定結果［表示］ | 手順 |
|---|---|
| 正常に測定が終了したとき<br>［SAVE EXIT］ | 手順 2 へ進んでください。 |
| 正常に測定できなかったとき<br>［E - ■■■ ■■］ | 「エラーコードが表示されたときは」（29 ページ）をご覧ください。 |

### 2 測定結果の内容を見る。

↑/↓ボタンを繰り返し押して項目を選択し、⊕ボタンを押す。

- EXIT
  測定した設定を保存しないで終了します。
- WARN CHECK
  測定結果の注意事項を表示します。「注意事項のメッセージを確認する」（30ページ）をご覧ください。
- SAVE EXIT
  測定した設定を保存し、終了します。
- RETRY
  再測定します。

### 3 測定結果を保存する。

手順2で「SAVE EXIT」を選択します。
表示窓に「COMPLETE」が表示され、測定結果が保存されます。

### 4 本機から測定用マイクを抜く。

**ご注意**
スピーカーの設置位置を変更したときは、測定をやり直してください。

## エラーコードが表示されたときは

### 1 エラーの原因を調べる。

| 表示と説明 |
|---|
| **E - ■■■＊ 32**<br>どのチャンネルからも音が検出されませんでした。測定用マイクが正しく接続されていることを確認し、再測定してください。測定用マイクが正しく接続されているのにエラーコードが表示された場合は、測定用マイクが破損している可能性があります。 |
| **E - ■■■＊ 33**<br>• 測定用マイクが接続されていません。<br>• フロントスピーカーが接続されていない、またはフロントスピーカーが 1 本しか接続されていません。<br>• 左か右、どちらかのサラウンドスピーカーが接続されていません。<br>• サブウーファーが接続されていません。 |

＊ ■■■部分には、スピーカーチャンネルが表示されます。
F　フロント
S　サラウンド
SW　サブウーファー
エラーコードによっては、スピーカーチャンネルが表示されない場合があります。

### 2 再測定する。

↑/↓ボタンを押して「RETRY YES」を選択し、⊕を押す。

### 3 「3：測定結果を確認／保存する」（29 ページ）の手順を行う。

## 注意事項のメッセージを確認する

測定結果に注意事項があった場合、詳しい情報を表示します。

| 表示と説明 |
|---|
| **W - ■■■* 40**<br>測定は完了しましたが、騒音のレベルが高いです。<br>周囲の騒音が少ない状態で測定すると、測定結果が良くなることがあります。 |
| **W - ■■■* 41**<br>**W - ■■■* 42**<br>測定用マイクからの入力が過大です。スピーカーとマイクの距離が近すぎる可能性があります。スピーカーとマイクを離して再測定してください。 |
| **W - ■■■* 43**<br>サブウーファーの距離・位相が測定できませんでした。ノイズが原因となっている場合があります。周囲が静かな状態で再測定してください。 |
| **NO WARN**<br>注意事項の情報はありません。 |

* ■■■部分には、スピーカーチャンネルが表示されます。

| | |
|---|---|
| FL | フロント（左） |
| FR | フロント（右） |
| CNT | センター |
| SL | サラウンド（左） |
| SR | サラウンド（右） |
| SW | サブウーファー |

測定結果によっては、スピーカーチャンネルが表示されない場合があります。

### 「3：測定結果を確認／保存する」の手順2に戻るには

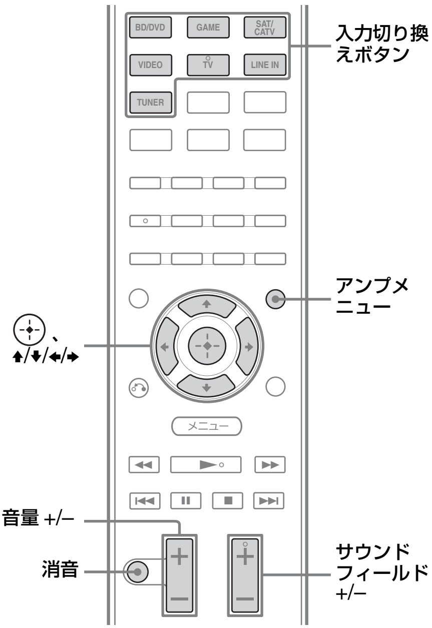
⊕ボタンを押す。

#### ちょっと一言

サブウーファーの位置によって、測定結果が異なる場合があります。測定結果のまま使って問題ありません。

## 基本操作

# 再生する




**1** **接続した機器の電源を入れる。**

**2** **本機の電源を入れる。**

**3** **再生したい機器に対応する入力切り換えボタンを押す。**

本機のINPUT +/–ボタンを使って操作することもできます。
選択した入力が表示窓に表示されます。

**ご注意**

TUNERボタンを押すと、表示窓に「FM TUNER」と表示された後、周波数が表示されます。

**4** **接続した機器を再生する。**

**5** **音量+/–ボタンを押して、音量を調節する。**

本体のMASTER VOLUMEつまみを使って操作することもできます。

**6** **サウンドフィールド+/–ボタンを押して、サウンドフィールド（サラウンド効果）を選ぶ。**

本体のSOUND FIELDボタンを使って操作することもできます。

### 音を一時的に消すには

リモコンの消音ボタンを押します。表示窓に「MUTING」が表示されます。
以下の操作をすると、消音機能は解除されます。

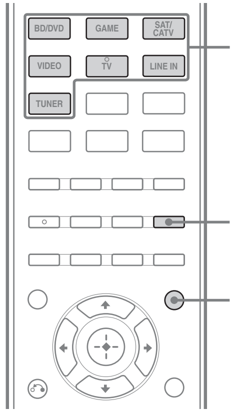
- リモコンの消音ボタンをもう一度押す。
- 音量を上げる。
- 本機の電源を切る。
- 自動音場補正機能を使って測定する。

### スピーカーの破損を防ぐために

電源を切る前に、音量を最小にしておいてください。

## 表示を切り換える

表示窓の表示を切り換えて、サウンドフィールドなど本機のさまざまな情報を確認できます。




**1** **確認したい情報の入力を選択する。**

**2** **アンプメニューボタンを押して、画面表示ボタンを繰り返し押す。**

ボタンを押すたびに、次のように表示が切り換わります。

選択されている入力→現在のサウンドフィールド→音量レベル

### FMラジオを受信しているとき

登録した放送局*→周波数→現在のサウンドフィールド→音量レベル

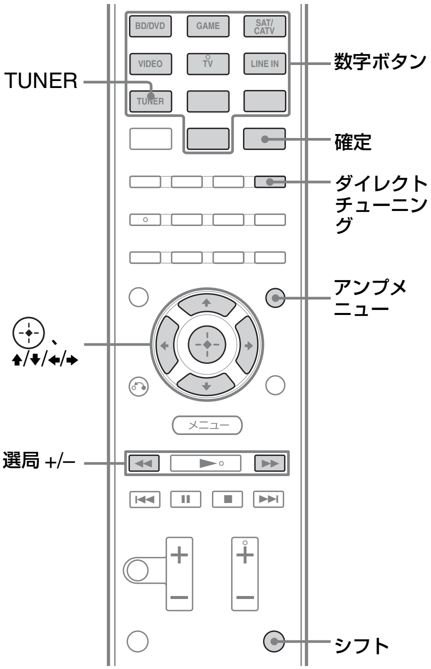
* 登録した放送局の名前は、あらかじめ放送局の名前を入力している場合にのみ表示されます（34ページ）。

**ご注意**

言語によっては、文字やマークが表示されないことがあります。

# FMラジオを聞く

内蔵チューナーを使って、FMラジオを聞くことができます。操作の前に、本機にFMアンテナが接続されていることを確認してください（25ページ）。




## 自動で受信する（自動受信）

**1** **TUNERボタンを押す。**

**2** **選局+ボタンまたは選局–ボタンを押す。**

選局+ボタンを押すと、低い周波数から高い周波数へと放送局をスキャンします。選局–ボタンを押すと、高い周波数から低い周波数へと放送局をスキャンします。

放送局を受信すると自動的にスキャンを停止します。

### FM放送の受信状態が良くないときは

FM放送の受信状態が良くないときや、表示窓の「ST」が点滅しているときは、モノラル受信を選びます。ステレオ受信ではありませんが、聞きやすくなります。

**1** アンプメニューボタンを押す。

**2** ↑/↓ボタンを繰り返し押して「TUNER」を選択し、⊕ボタンまたは→ボタンを押す。

**3** ↑/↓ボタンを繰り返し押して「FM MODE」を選択し、⊕ボタンまたは→ボタンを押す。

**4** ↑/↓ボタンを繰り返し押して「MONO」を選択し、⊕ボタンを押す。

ステレオ受信に戻すには、手順1から4を繰り返し、手順4で「STEREO」を選択します。

#### ちょっと一言

付属のFMワイヤーアンテナの向きを変えると、受信状態が良くなる場合があります。

## 手動で受信する（ダイレクト選局）

数字ボタンで聞きたい放送局の周波数を入力し、放送局を受信できます。

**1** **TUNERボタンを押す。**

**2** **ダイレクトチューニングボタンを押す。**

**3** **シフトボタンを押しながら、数字ボタンを押して聞きたい放送局の周波数を入力する。**

例：FM 88.00 MHz
8 ➡ 8 ➡ 0と入力する

**4** **シフトボタンを押しながら、確定ボタンを押す。**

### 誤った周波数を入力したときは

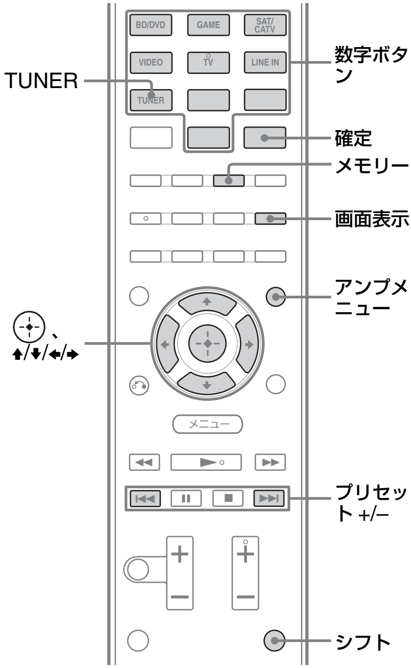
「FM ---.--」が表示された後、現在の周波数が再び表示されます。

### 放送局を受信できないときは

正しい周波数が入力されているか確認してください。手順2～4をやり直してください。それでも放送局を受信できない場合は、入力した周波数が使われていない可能性があります。

# 放送局を登録する

30局のFM局をお気に入りの放送局として登録できます。




**1** **TUNERボタンを押す。**

**2** **登録したい放送局を、自動（32ページ）または手動（33ページ）で受信する。**

**3** **メモリーボタンを押す。**

プリセット番号が表示窓に表示されます。

**4** **プリセット+ボタンまたはプリセット–ボタンを繰り返し押して、登録したいプリセット番号を選択する。**

シフトボタンを押しながら数字ボタンを押して、直接プリセット番号を選択することもできます。

次のページへつづく

**5** **シフトボタンを押しながら、確定ボタンを押す。**

選択したプリセット番号で放送局が登録されます。

**6** **手順2から5をくり返して、他の放送局を登録する。**

### プリセット番号を変更するには

手順3からやり直します。

## 登録した放送局を聞く

**1** **TUNERボタンを押す。**

**2** **プリセット+ボタンまたはプリセット–ボタンを押して、放送局を選択する。**

ボタンを押すたびに、プリセット番号は以下のように切り換わります。

→1 ←→ 2 ←→ 3 ←→ 4 ←→ 5 ←→...←→27←

→30←→29←→28←

シフトボタンを押しながら数字ボタンを押して、登録した放送局を入力することもできます。放送局を選んだ後、シフトボタンを押しながら確定ボタンを押してください。

## 登録した放送局に名前を付ける

**1** **TUNERボタンを押す。**

**2** **名前を付けたい放送局を受信する（34ページ）。**

**3** **アンプメニューボタンを押す。**

**4** **↑/↓ボタンを繰り返し押して「TUNER」を選択し、⊕ボタンまたは→ボタンを押す。**

**5** **↑/↓ボタンを繰り返し押して「NAME IN」を選択し、⊕ボタンまたは→ボタンを押す。**

カーソルが点滅し、文字を選択できるようになります。

**6** **↑/↓ボタンで文字を選択し、←/→ボタンで入力位置を前後に移動する。**

放送局の名前には最大8文字を入力できます。

**ちょっと一言**

- ↑/↓ボタンで文字の種類を選択できます。押すたびに、以下の順で切り換わります。
  アルファベット（大文字）→数字→記号
- 空白を入れるには、文字を選択せずに→ボタンを押します。

**間違えて入力したときは**

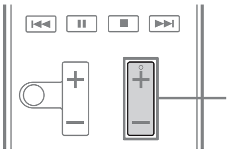
←/→ボタンで訂正したい文字を点滅させ、↑/↓ボタンで正しい文字を選択します。

**7** **⊕ボタンを押す。**

入力した名前が保存されます。

# サウンドフィールドを選択する

本機にあらかじめ設定されているサウンドフィールドから、お好みのサウンドフィールドを選択するだけで、マルチチャンネルのサラウンド効果を楽しめます。




**サウンドフィールド+/–ボタンを繰り返し押して、お好みのサウンドフィールドを選択する。**

本体のSOUND FIELDボタンを使って操作することもできます。

## 2チャンネル音声モード

音楽ソフトの記録フォーマットや接続した再生機器、サウンドフィールドなどに関係なく、2チャンネル音声出力に切り換えられます。

### ■ 2CH ST.（2 Channel Stereo）

左右のフロントスピーカーと、サブウーファーのみから音を出します。
標準的な2チャンネルステレオ音声は、サウンドフィールドの回路を通さずに再生します。マルチチャンネル音声は、2チャンネルにして（ダウンミックス）再生します。LFE信号は再生されません。

## オートフォーマットダイレクト（A.F.D.）モード

オートフォーマットダイレクト（A.F.D.）モードを使って、録音またはエンコードされたままのソフトの音を再現します。また、2チャンネルステレオ音声をマルチチャンネルで聞くための、デコード処理モードを選択することができます。

### ■ A.F.D. STD（A.F.D. Standard）

サラウンド効果なしで録音またはエンコードされたままの音声として処理します。
ただし、低域効果音であるLFE信号がないときは、本機がサブウーファー用信号を生成し、サブウーファーから出力します。

### ■ A.F.D. MULTI（A.F.D. Multi）

2チャンネルの信号に対し、L/R成分をすべてのスピーカーから出力します。

## 映画用モード

ご自分の部屋で、映画館の臨場感を再現できます。

### ■ HD-D.C.S.（HD Digital Cinema Sound）

最新の音響・デジタル信号処理技術を活用した、ソニーの新しい革新的なホームシアター技術です。マスタリングスタジオの高精度な周波数特性測定データに基づいています。
このモードを選択すると、ご自分の部屋でブルーレイやDVDの映画を見るときに、映画の音響担当者がマスタリング工程で意図したとおりの高品質な音声を、最高の音響環境で楽しむことができます。

次のページへつづく

### ■ PLII MV（Pro Logic II Movie）
ドルビープロロジックIIのムービーモード処理を行います。ドルビーサラウンド・エンコードされた映画音声の再生に適しています。また、吹替版や古い映画のビデオなども、5.1チャンネルで再生できます。

### ■ NEO6 CIN（Neo:6 Cinema）
DTS Neo:6のシネマモード処理を行います。2チャンネルの音源を5チャンネルにデコードします。

## 音楽用モード

ご自分の部屋でコンサートホールの臨場感を再現できます。

### ■ SPORTS（スポーツ）
スポーツ中継放送の雰囲気を再現します。

### ■ GAMING（ゲーム）
テレビゲームをプレイするのに適した、迫力あるリアルなサウンドを再現します。

### ■ NEWS（ニュース）
アナウンサーのクリアな音声を再現します。

### ■ P. AUDIO（ポータブルオーディオ）
ポータブルオーディオ機器から、よりクリアな音像を再現します。MP3やその他の圧縮された音源の再生に適しています。

### ■ PLII MS（Pro Logic II Music）
ドルビープロロジックIIのミュージックモード処理を行います。CDなど通常のステレオ処理された音源の再生に適しています。

### ■ NEO6 MUS（Neo:6 Music）
DTS Neo:6のミュージックモード処理を行います。2チャンネルの音源を5チャンネルにデコードします。CDなど通常のステレオ処理された音源の再生に適しています。

**ご注意**
- 音源が5.1チャンネル以上の場合は、5.1チャンネルにして（ダウンミックス）再生します。
- サンプリング周波数が48 kHz以上のDTS-HD Master Audio、DTS-HD High Resolution Audio、Dolby TrueHDを受信している場合、映画用／音楽用モードは機能しません。
- 音源によっては、音声が複数のスピーカーから出力されない場合があります。
- ディスクや音源によっては、最適なモードが自動的に選択され、音声が頭切れすることがあります。音声の頭切れを防ぐには、「A.F.D. STD」を選択します。
- 入力された音源がマルチチャンネルの場合、ドルビープロロジックIIムービー /ミュージックの設定は解除され、マルチチャンネルの音源が直接出力されます。
- 入力された音源が二カ国語放送の場合、ドルビープロロジックIIムービー /ミュージックの設定は機能しません。
- 入力されたストリームによっては、設定したデコードモードが機能しないことがあります。
- 「HD-D.C.S.」を選択している場合、入力されたストリームによっては、自動的にドルビープロロジックが適用されることがあります。

### 映画用／音楽用のサウンドフィールドを解除するには
サウンドフィールド+/–ボタンを繰り返し押して、「2CH ST.」または「A.F.D. STD」を選択します。
本機のSOUND FIELDボタンを使って、「2CH ST.」または「A.F.D. STD」を選択することもできます。

# “ブラビアリンク”機能とは？

“ブラビアリンク”機能は、HDMI機器制御機能に対応したテレビ、ブルーレイディスクレコーダー、DVDプレーヤー、AVアンプなどのソニー製品と連動した操作を可能にします。
“ブラビアリンク”機能に対応しているソニー製品をHDMIケーブル（別売り）で接続すると、以下の操作ができます。
- ワンタッチプレイ（38ページ）
- システムオーディオコントロール（39ページ）
- オートジャンルセレクター（40ページ）
- 電源オフ連動（41ページ）
- オーディオリターンチャンネル（41ページ）
- シアターモード（42ページ）
- シーンセレクト（42ページ）

HDMI機器制御機能は、HDMI CEC（Consumer Electronics Control）で使用されている、HDMI（High-Definition Multimedia Interface）のための相互制御機能の規格です。

本機は、“ブラビアリンク”機能に対応している機器と接続することをおすすめします。

**ご注意**

接続した機器によっては、HDMI機器制御機能が機能しないことがあります。お持ちの機器の取扱説明書をご覧ください。

# “ブラビアリンク”の準備をする

本機は「HDMI機器制御設定連動」に対応しています。
- 「HDMI機器制御設定連動」に対応しているテレビをお持ちの場合は、テレビのHDMI機器制御機能を設定すると、本機や再生機器の設定内容も連動して設定されます（37ページ）。
- 「HDMI機器制御設定連動」に対応していないテレビをお持ちの場合は、本機や再生機器、テレビのHDMI機器制御機能を別々に設定してください（38ページ）。

## お持ちのテレビが「HDMI機器制御設定連動」に対応している場合は

テレビのHDMI機器制御機能が有効になると、本機のHDMI機器制御機能も連動して有効になります。

**1 本機とテレビ、再生機器がHDMIケーブル（別売り）で接続されていることを確認する（22ページ）。**
**（各機器はHDMI機器制御機能に対応している必要があります。）**

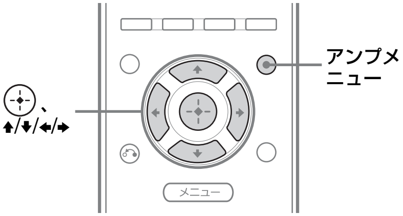
**2 本機とテレビ、再生機器の電源を入れる。**

**3 テレビのHDMI機器制御機能を有効にする。**
本機と接続した機器のHDMI機器制御機能が連動して設定されます。設定が完了すると、表示窓に「COMPLETE」と表示されます。

テレビの設定方法については、テレビの取扱説明書を参照してください。

次のページへつづく

### お持ちのテレビが「HDMI機器制御設定連動」に対応していない場合は




**1** **アンプメニューボタンを押す。**

**2** **↑/↓ボタンを繰り返し押して「HDMI」を選択し、⊕ボタンまたは→ボタンを押す。**

**3** **↑/↓ボタンを繰り返し押して「CTRL HDMI」を選択し、⊕ボタンまたは→ボタンを押す。**

**4** **↑/↓ボタンを繰り返し押して「CTRL ON」を選択し、⊕ボタンを押す。**
HDMI機器制御機能が有効になります。

**5** **接続した機器のHDMI機器制御機能を有効にする。**
すでに有効になっている場合は、設定を変更する必要はありません。
テレビや接続した機器の設定方法については、お持ちの機器の取扱説明書を参照してください。

**ご注意**

- テレビから「HDMI機器制御設定連動」を実行する場合、事前にテレビと本機、再生機器の電源を入れてください。
- 「HDMI機器制御設定連動」設定後に再生機器が動作しない場合は、テレビのHDMI機器制御機能設定を確認してください。
- 接続した機器がHDMI機器制御機能に対応していても「HDMI機器制御設定連動」に対応していない場合は、テレビの「HDMI機器制御設定連動」を実行する前に、接続した機器のHDMI機器制御機能を有効にしてください。

## ワンタッチで機器を再生する

### （ワンタッチプレイ）

簡単な操作（ワンタッチ）で、本機と“ブラビアリンク”機能で接続された機器を自動的に起動して視聴できます。

接続した機器で再生を始めると、本機とテレビは下記のように動作します。

**本機とテレビ**

| |
|---|
| 電源が入る（スタンバイモードの場合）<br>↓<br>適切なHDMI入力に切り換わる |

**ご注意**

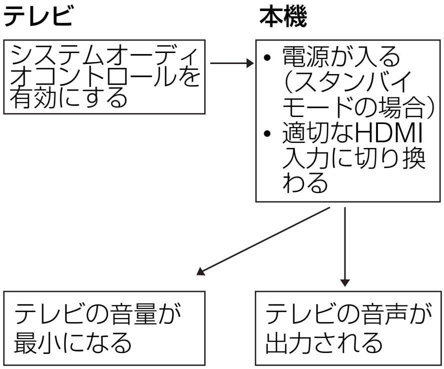
- テレビのメニューでシステムオーディオコントロール機能を有効にしてください。
- テレビによっては、最初の部分が表示されないことがあります。

**ちょっと一言**

テレビのメニューを使って、ブルーレイディスクレコーダー、DVDプレーヤーなどの接続機器を選択することができます。この場合、本機とテレビは自動的に適切なHDMI入力に切り換わります。

# テレビの音声を本機のスピーカーで楽しむ
## （システムオーディオコントロール）

簡単な操作で、テレビの音声を本機に接続したスピーカーから楽しめます。
システムオーディオコントロール機能は、テレビのメニューで操作できます。詳しくは、テレビの取扱説明書をご覧ください。




その他、システムオーディオコントロール機能は以下のように働きます。

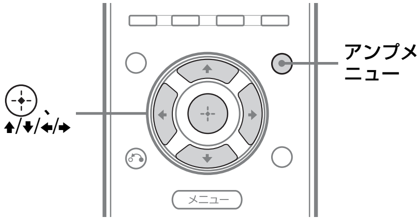
- テレビを視聴しているときに本機の電源を入れると、システムオーディオコントロール機能が自動的に有効になり、テレビの音声が本機に接続したスピーカーから出力されます。本機の電源を切ると、自動的にテレビのスピーカーから出力されます。
- テレビの音量を調節すると、システムオーディオコントロール機能により、本機に接続したスピーカーの音量を調節できます。

**ご注意**

- テレビの設定によっては、システムオーディオコントロール機能が働かないことがあります。テレビの取扱説明書をご覧ください。
- システムオーディオコントロール機能を利用するには、テレビがシステムオーディオコントロール機能に対応している必要があります。
- 本機の電源を入れてからテレビの音声が本機から出力されるまでには、多少時間がかかることがあります。

# デジタル放送のジャンルに応じて、サラウンド効果を自動的に切り換える
## （オートジャンルセレクター）

視聴中のデジタル放送の番組情報（EPG情報）を取得して、番組のジャンルに応じたサウンドフィールドに自動的に切り換えることができます（オートジャンルセレクター対応のテレビをお持ちの場合のみ）。
オートジャンルセレクターは、システムオーディオコントロール機能が有効になっている場合のみ機能します。




**1 アンプメニューボタンを押す。**

**2 ↓/↑ボタンを繰り返し押して「HDMI」を選択し、⊕ボタンまたは→ボタンを押す。**

**3 ↓/↑ボタンを繰り返し押して「SOUND.FIELD」を選択し、⊕ボタンまたは→ボタンを押す。**

**4 ↓/↑ボタンを繰り返し押して、設定を選択する。**

- 「AUTO」：デジタル放送のテレビ番組のジャンルに応じてサウンドフィールドが自動的に切り換わります。
- 「MANUAL」：サウンドフィールドボタンで選んだサウンドフィールドで、音声を出力します。

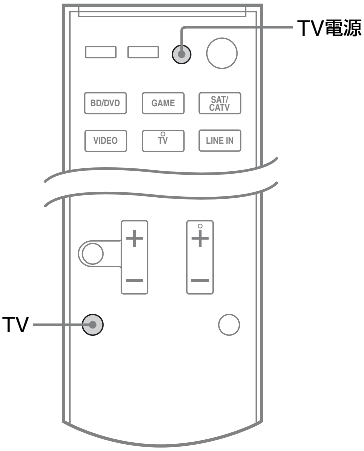
### 番組情報対応表

| 番組情報（EPG情報） | 選択可能なサウンドフィールド |
|---|---|
| ニュース／報道 | NEWS |
| スポーツ | SPORTS |
| 情報／ワイドショー | A.F.D. STD |
| ドラマ | A.F.D. STD |
| 音楽 | PLII MS |
| バラエティ | A.F.D. STD |
| 映画 | PLII MV |
| アニメ／特撮 | A.F.D. STD |
| ドキュメンタリー | A.F.D. STD |
| 劇場／公演 | PLII MS |
| 趣味／教育 | NEWS |
| 福祉 | NEWS |
| その他 | A.F.D. STD |
| スポーツ（CS） | SPORTS |
| 洋画（CS） | PLII MV |
| 邦画（CS） | PLII MV |
| 情報なし | STANDARD、または最後のサウンドフィールド |

**ご注意**
番組情報（EPG情報）に応じてサウンドフィールドが切り換わるとき、音声が途切れることがあります。

# テレビと本機の電源を切る
## （電源オフ連動）

テレビのリモコンでテレビの電源を切るときに、本機と接続した機器の電源も連動して切ることができます。
また、本機のリモコンでも電源オフ連動の操作ができます。




**TVボタンを押しながら、TV電源ボタンを押す。**

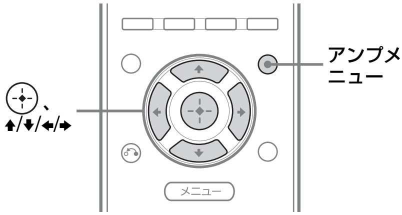
HDMIで接続したすべての機器の電源が切れます。

**ご注意**

- 電源オフ連動機能を使うには、テレビの電源連動機能の設定を有効にしてください。詳しくは、テレビの取扱説明書をご覧ください。
- 接続した機器によっては、電源が切れない場合があります。詳しくは、各機器の取扱説明書をご覧ください。

# HDMIケーブルからテレビの音声を伝送する
## （オーディオリターンチャンネル）

オーディオリターンチャンネル（ARC）に対応したテレビを、HDMIケーブルで本機のHDMI TV OUT端子に接続すると、テレビの音声信号が本機に伝送されます。
音声コードを本機のTV OPT IN端子に接続しなくても、テレビの音声を本機に接続したスピーカーで楽しめます。




**1** **アンプメニューボタンを押す。**

**2** **↑/↓ボタンを繰り返し押して「HDMI」を選択し、⊕ボタンまたは→ボタンを押す。**

**3** **↑/↓ボタンを繰り返し押して「ARC」を選択し、⊕ボタンまたは→ボタンを押す。**

**4** **↑/↓ボタンを繰り返し押して「ARC ON」を選択し、⊕ボタンを押す。**

**ご注意**

この機能は、お持ちのテレビがオーディオリターンチャンネル（ARC）に対応している場合にのみ有効になります。

# 映画を最適なサウンドフィールドで楽しむ（シアターモード）

**テレビやブルーレイディスクレコーダーのリモコンをテレビに向けて、シアターボタンを押す。**

サウンドフィールドが「HD-D.C.S.」に切り換わります。
もとのサウンドフィールドに切り換えるには、もう一度シアターボタンを押します。

**ご注意**

テレビによってはサウンドフィールドが切り換わらないことがあります。

**ちょっと一言**

テレビの入力を切り換えたとき、もとのサウンドフィールドに切り換わることがあります。

# 番組に合わせて最適なサウンドフィールドで楽しむ（シーンセレクト）

シーンセレクト機能を使って、テレビで設定した番組のジャンルに合った最適な画質、サウンドフィールドに切り換えます。詳しくは、テレビの取扱説明書をご覧ください。

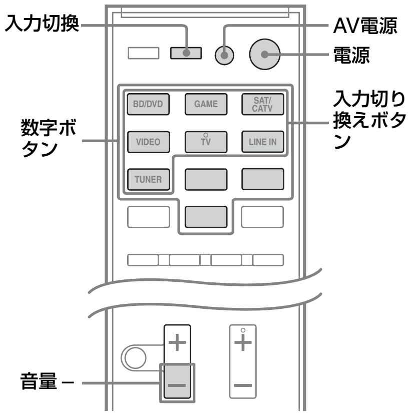
**ご注意**

テレビによってはサウンドフィールドが切り換わらないことがあります。

## その他の設定をする

# リモコンの入力切り換えボタンの割り当てを変更する

お持ちの機器に合わせて入力切り換えボタン（BD/DVD、GAME、SAT/CATV）の設定を変更できます。
例えば、ブルーレイディスクレコーダーを本機のSAT/CATV端子に接続した場合、リモコンのSAT/CATVボタンでブルーレイディスクレコーダーを操作できるように設定できます。




**1　割り当てを変更したい入力切り換えボタンを押しながら、AV電源ボタンを押す。**

例：SAT/CATVボタンを押しながら、AV電源ボタンを押す。

**2　AV電源ボタンを押したまま、入力切り換えボタンをはなす。**

例：AV電源ボタンを押したまま、SAT/CATVボタンをはなす。

**3 下記の表を参照し、使いたい機器の種類に対応するボタンを押し、AV電源ボタンをはなす。**

例：2を押し、AV電源ボタンをはなす。
SAT/CATVボタンでブルーレイディスクレコーダーを操作できるようになります。

| 機器の種類 | ボタン |
|---|---|
| ブルーレイディスクプレーヤー（リモコンコード：BD1）[a] | 1 |
| ブルーレイディスクレコーダー（リモコンコード：BD3）[a][b] | 2 |
| DVD プレーヤー（リモコンコード：DVD1） | 3 |
| DVD レコーダー（リモコンコード：DVD3）[c] | 4 |
| TV[d] | 5 |
| TV[d][e] | 6 |
| デジタル CS チューナー[f] | 7 |

[a] BD1またはBD3の設定について詳しくは、ブルーレイディスクプレーヤーまたはブルーレイディスクレコーダーの取扱説明書をご覧ください。
[b] BD/DVDの初期設定です。
[c] ソニー製のDVDレコーダーは、DVD1またはDVD3の設定で操作できます。詳しくは、DVDレコーダーの取扱説明書をご覧ください。
[d] TVボタンの設定によって操作内容が異なります。
[e] CATVチューナーを登録する場合は、この設定をおすすめします。
[f] SAT/CATVの初期設定です。

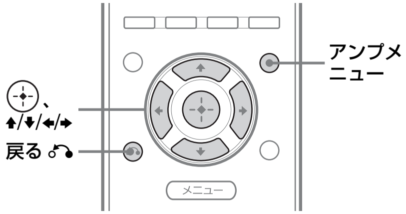
### リモコンをお買い上げ時の設定に戻す

音量–ボタンを押したまま、電源ボタンと入力切換ボタンを押します。
リモコンの設定がお買い上げ時の状態に戻ります。

# 設定メニューの使いかた

メニューを使って、本機のさまざまな設定をすることができます。

## メニューを使って設定する




**1 アンプメニューボタンを押す。**

**2 ↑/↓ボタンを繰り返し押して設定したいメニューを選択し、⊕ボタンまたは→ボタンを押す。**

**3 ↑/↓ボタンを繰り返し押して設定したい項目を選択し、⊕ボタンまたは→ボタンを押す。**

**4 ↑/↓ボタンを繰り返し押して設定値を選択し、⊕ボタンを押す。**

### 前の表示に戻るには

←ボタンまたは戻るボタンを押します。

### メニューから抜けるには

アンプメニューボタンを押します。



次のページへつづく

# メニュー一覧

アンプメニューボタンを使って、以下の項目を設定することができます。
下線のある設定値が初期設定です。

### アンプメニュー

- AUTO CAL[a] — A.CAL START
- LEVEL
  - TEST TONE
    - AUTO ■■■[b]
    - OFF
  - FL LEVEL — FL +6.0,... / FL 0,... / FL -6.0
  - FR LEVEL — FR +6.0,... / FR 0,... / FR -6.0
  - CNT LEVEL[c] — CNT +6.0,... / CNT 0,... / CNT -6.0
  - SL LEVEL[d] — SL +6.0,... / SL 0,... / SL -6.0
  - SR LEVEL[d] — SR +6.0,... / SR 0,... / SR -6.0
  - SW LEVEL — SW +6.0,... / SW 0,... / SW -6.0
  - D. RANGE
    - COMP. MAX
    - COMP. STD
    - COMP. AUTO
    - COMP. OFF
- SPEAKER
  - CENTER SP
    - CENTER YES
    - CENTER NO
  - SUR SP
    - SUR YES
    - SUR NO
  - FL DIST. — FL 10.00 M,... / FL 3.00 M,... / FL 1.00 M
  - FR DIST. — FR 10.00 M,... / FR 3.00 M,... / FR 1.00 M
  - CNT DIST.[c] — CNT 10.00 M,... / CNT 3.00 M,... / CNT 1.00 M
  - SL DIST.[d] — SL 10.00 M,... / SL 3.00 M,... / SL 1.00 M
  - SR DIST.[d] — SR 10.00 M,... / SR 3.00 M,... / SR 1.00 M
  - SW DIST. — SW 10.00 M,... / SW 3.00 M,... / SW 1.00 M
- EQ
  - BASS — BASS +6,... / BASS 0,... / BASS -6
  - TREBLE — TREBLE +6, / ...TREBLE 0, / ...TREBLE -6
- TUNER[e]
  - FM MODE
    - STEREO
    - MONO
  - NAME IN
- AUDIO
  - A/V SYNC
    - SYNC ON
    - SYNC OFF
  - DUAL MONO
    - MAIN/SUB
    - MAIN
    - SUB
  - NIGHT MODE
    - NIGHT ON
    - NIGHT OFF
  - INPUT MODE[f]
    - AUTO
    - OPT
- HDMI
  - CTRL HDMI
    - CTRL ON
    - CTRL OFF
  - PASS THRU[g]
    - ON
    - AUTO
  - SOUND. FIELD[g][h]
    - AUTO
    - MANUAL
  - ARC[g][i]
    - ARC ON
    - ARC OFF
- SYSTEM
  - DIMMER
    - DIM MAX
    - DIM MID
    - DIM OFF
  - SLEEP
    - 2-00-00
    - 1-30-00
    - 1-00-00
    - 0-30-00
    - OFF
  - AUTO STBY
    - STBY ON
    - STBY OFF

a) 詳しくは、「2：測定する」（28ページ）をご覧ください。
b) ■■■部分には、スピーカーチャンネルが表示されます（FL、CNT、FR、SR、SL、SW）。
c) この項目は、「CENTER SP」が「CENTER YES」に設定されたときのみ設定可能です。
d) この項目は、「SUR SP」が「SUR YES」に設定されたときのみ設定可能です。
e) この項目は、TUNER入力を選択したときのみ設定可能です。
f) この項目は、SAT/CATV入力を選択したときのみ設定可能です。
g) この項目は、「CTRL HDMI」が「CTRL ON」に設定されたときのみ設定可能です。
h) 詳しくは、「デジタル放送のジャンルに応じて、サラウンド効果を自動的に切り換える（オートジャンルセレクター）」（40ページ）をご覧ください。

i) 詳しくは、「HDMIケーブルからテレビの音声を伝送する（オーディオリターンチャンネル）」（41ページ）をご覧ください。

## LEVELメニュー

お好みに合わせて、各スピーカーのレベルやバランスを調節できます。

### 各スピーカーからテストトーンを出力するには

各スピーカーからテストトーンを順番に出力できます。
- AUTO FL、AUTO CNT、AUTO FR、AUTO SR、AUTO SL、AUTO SW
- OFF

### テストトーンが何も聞こえないときは

- スピーカーコードがしっかり接続されていない可能性があります。
- スピーカーコードがショートしている可能性があります。

**ご注意**

テストトーン信号は、HDMI TV OUT端子からは出力されません。

### スピーカーのレベルを調節するには

各スピーカーのレベル（FL LEVEL、FR LEVEL、CNT LEVEL、SL LEVEL、SR LEVEL、SW LEVEL）は、–6.0 dB～+6.0 dBの範囲で0.5 dBごとに調節できます。

### 小音量でドルビーデジタルの音声を楽しむ（D. RANGE）

サウンドトラックのダイナミックレンジを狭くします。小音量で映画を楽しみたいときに便利です。
D. RANGEはドルビーデジタルの音源のみに機能します。
- COMP. MAX：ダイナミックレンジを最大限に圧縮します。
- COMP. STD：レコーディングエンジニアが意図するダイナミックレンジで、サウンドトラックを再現します。
- COMP. AUTO：ダイナミックレンジを自動的に圧縮します。
- COMP. OFF：ダイナミックレンジの圧縮を行いません。

**ちょっと一言**

音声のダイナミックレンジの圧縮は、サウンドトラックのダイナミックレンジを、ドルビーデジタルに記録されているダイナミックレンジ情報に基づいて圧縮します。
「COMP. STD」が本来の圧縮値ですが、控えめに感じるときは、「COMP. MAX」をおすすめします。これは極端にダイナミックレンジを圧縮しますので、深夜のビデオ鑑賞などに便利です。アナログのリミッターとは異なり、機器側が圧縮ポイントをあらかじめ予測しているため、自然な圧縮になります。

## SPEAKERメニュー

本機に接続している各スピーカーの距離を調節できます。

### スピーカーの接続を設定するには

- CENTER (SUR) YES：該当スピーカーを接続しているときに選択します。
- CENTER (SUR) NO：該当スピーカーを接続していないときに選択します。

### スピーカーの距離を設定するには

各スピーカーの距離（FL DIST、FR DIST、CNT DIST、SL DIST、SR DIST、SW DIST）は、1.00 M～10.00 Mの範囲で0.1メートルごとに調節できます。

**ちょっと一言**

自動音場補正機能を使って測定を行い、測定結果を保存した場合にのみ、0.01メートルごとに距離を調節できます。

## EQメニュー

フロントスピーカーのイコライザー（低域／高域のレベル）は、–6 dB～+6 dBの範囲で1 dBごとに調節できます。

■BASS
■TREBLE

## TUNERメニュー

FM放送局の受信モードを設定できます。また、登録した放送局に名前を付けることもできます。

### ■ FM MODE

- STEREO：ステレオで放送されたラジオ放送を、ステレオとして受信します。
- MONO：放送信号に関わらず、モノラルとして受信します。

### ■ NAME IN

登録した放送局に名前を付けます。詳しくは、「登録した放送局に名前を付ける」（34ページ）をご覧ください。

## AUDIOメニュー

お好みに合わせて、音声の設定を調節できます。

### ■ A/V SYNC

音声の出力を遅らせて、映像と音声のずれを調節することができます。

- SYNC ON：音声の出力を遅らせて、映像と音声のずれを調節します。
- SYNC OFF：音声の出力を遅らせません。

**ご注意**

- この機能を使っても、映像と音声のずれを調節できない場合があります。
- 大きな液晶ディスプレイやプラズマモニター、プロジェクターなどを使用しているときに便利です。
- 遅らせる時間は音声フォーマット、サウンドフィールド、スピーカーの距離の設定などによって異なる場合があります。

### ■ DUAL MONO

二重音声放送などのデジタル放送を聞くときの音声を選択します。この機能は、ソースがMPEG-2 AACやドルビーデジタルフォーマットのときのみ有効です。

- MAIN/SUB：フロント左スピーカーから主音声、フロント右スピーカーから副音声を同時に出力します。
- MAIN：主音声のみを出力します。
- SUB：副音声のみを出力します。

### ■ NIGHT MODE

音量が小さい状態でも、劇場のようなサラウンド効果を楽しめる機能です。

- NIGHT ON
- NIGHT OFF

**ちょっと一言**

この機能を有効にすると、低域／高域／エフェクトレベルが増加し、「D. RANGE」が自動的に「COMP. MAX」に設定されます。

### ■ INPUT MODE

衛星放送チューナーやケーブルテレビチューナーを本機のHDMI IN端子と光デジタル音声入力端子の両方に接続し、SAT/CATV入力を選択している場合の音声入力モードの設定を選択します。

- AUTO：HDMIデジタル音声入力端子と光デジタル音声入力端子の両方に接続している場合、HDMIデジタル音声入力が優先されます。
- OPT：SAT/CATV OPT IN端子のデジタル音声入力が選ばれます。

## HDMIメニュー

HDMI端子に接続した機器の設定ができます。

### ■ CTRL HDMI

HDMI機器制御機能を有効にします。詳しくは、「“ブラビアリンク”機能を使う」（37ページ）をご覧ください。

### ■ PASS THRU

本機がスタンバイモードでもHDMI信号をテレビに出力できるようにします。

- ON：本機のHDMI TV OUT端子からHDMI信号を出力し続けます。
- AUTO：本機がスタンバイモード時にテレビの電源を入れると、本機のHDMI TV OUT端子からHDMI信号を出力します。“ブラビアリンク”対応のソニー製テレビをお持ちの場合、この設定をおすすめします。「ON」設定時よりもスタンバイモード時の消費電力を削減できます。

#### ご注意

- “ブラビアリンク”対応のテレビでも、消費電力節約機能が機能しないことがあります。この場合、「PASS THRU」を「ON」に設定してください。
- 機器によっては、映像や音声の出力に時間がかかることがあります。

## SYSTEMメニュー

本機の各種設定を変えることができます。

### ■ DIMMER

表示窓の明るさを3段階で調節できます。

- DIM MAX
- DIM MID
- DIM OFF

### ■ SLEEP

設定した時間がたつと、本機の電源が自動的に切れるように設定できます。

- 2-00-00（2時間）
- 1-30-00（1時間30分）
- 1-00-00（1時間）
- 0-30-00（30分）
- OFF

スリープタイマーが働いているあいだは、表示窓に「SLEEP」が点灯します。

#### ちょっと一言

本機の電源が切れるまでの残り時間を確認するには、アンプメニューボタンを押して「SLEEP」を選択します。表示窓に残り時間が表示されます。スリープタイマーを解除する場合、「OFF」を選択します。

### ■ AUTO STBY

しばらく操作をしないとき、または本機に信号が入力されないとき、自動的にスタンバイモードになるよう設定できます。

- STBY ON：約30分後にスタンバイモードになります。
- STBY OFF：スタンバイモードになりません。

#### ご注意

- この機能は、TUNER入力が選択されているときは機能しません。
- スリープタイマーとオートスタンバイモードを同時に有効にしている場合は、スリープタイマーの設定が優先されます。

# 故障かな？と思ったら

本機の使用中に問題が発生した場合、下記の処置をおこなってください。それでも問題が解決しない場合は、お近くのソニー製品お買い上げ店にお問い合わせください。

## 電源

### 本機の電源が自動的に切れる

- 「AUTO STBY」が「STBY ON」に設定されています（47ページ）。
- スリープタイマー機能がオンに設定されています（47ページ）。

## 音声

### ドルビーデジタルやDTS、AACのマルチチャンネルの音声が再生されない

- 再生中のDVDなどが、ドルビーデジタルやDTSで録音されているか確認してください。
- DVDプレーヤーなどを本機のデジタル入力端子に接続しているときは、接続した機器の音声の出力設定を確認してください。
- テレビのメニューを使って、スピーカー設定をオーディオシステムに設定してください。
- HDMIメニューの「CTRL HDMI」が「CTRL OFF」に設定されているか確認してください。

### サラウンド効果が得られない

- 映画モードや音楽モードにサウンドフィールドを設定したか確認してください（35、36ページ）。
- サンプリング周波数が48 kHzより高いDTS-HD Master Audio、DTS-HD High Resolution AudioまたはDolby TrueHDを受信しているときは、サウンドフィールドは機能しません。

### 特定のスピーカーの音が出ない、または非常に音量が小さい

- アナログ機器を接続しているときは、L/Rの片方の端子のみに接続していないか確認してください。アナログ機器はL/R両方の端子に接続する必要があります。音声コード（別売り）を使ってL/R両方の端子に接続してください。
- スピーカーがしっかりと接続されているか確認してください。
- サブウーファーが正しく、またしっかりと接続されているか確認してください。
- スピーカーの音量を調節してください（45ページ）。

### 選択した機器から音が出ない

- 選択した機器の音声入力端子に正しく接続されているか確認してください。
- 接続コードが本機や選択した機器に正しく接続されているか確認してください。
- 選択した機器のHDMI端子に正しく接続されているか確認してください。
- HDMIメニューの「CTRL HDMI」が「CTRL ON」に設定されているか確認してください。
- HDMI接続では、スーパーオーディオCDを聞くことができません。
- 再生機器によっては、機器側でHDMI設定が必要な場合があります。接続した機器の取扱説明書をご覧ください。
- 特に1080pやDeep Color、3D伝送の映像や音声を視聴するときは、High Speed HDMIケーブルで接続しているか確認してください。

### どの機器を選択しても音が出ない、または非常に音量が小さい

- すべての接続コードが本機やスピーカー、再生機器の該当する入出力端子に正しく接続されているか確認してください。
- 本機とすべての機器の電源が入っているか確認してください。
- MASTER VOLUMEが「VOL MIN」に設定されていないか確認してください。
- リモコンの消音ボタンを押して、消音機能を解除してください。
- 入力切り換えボタンで正しい入力が選択されているか確認してください。
- 保護回路が働いています。本機の電源を切り、スピーカーの接続にショートがないか確認して、もう一度電源を入れてください。
- INPUT MODEでSAT/CATV入力が正しく設定されているか確認してください。

### ハム音またはノイズが多い

- スピーカーおよび各機器がしっかりと接続されているか確認してください。
- 接続コードがトランスやモーターから離れているか、テレビや蛍光灯からは少なくとも3メートル離れているか確認してください。
- テレビを他のオーディオ機器から離して設置してください。
- プラグや端子が汚れています。アルコールで少し湿らせた布で拭き取ってください。

### デジタル入力（OPTICAL）の音が出ない

- INPUT MODEでSAT/CATV入力が「OPT」に設定されているか確認してください（46ページ）。
- テレビから信号を入力しているときにTV OPT IN端子から音が出力されない場合は、「ARC」を「ARC OFF」に設定してください。

### 本機がスタンバイモードのとき、テレビから音が出ない

- 本機がスタンバイモードになると、本機の電源が切れる前に最後に選択されていたHDMI入力から音声が出ます。視聴したい機器が、最後に選択されていたHDMI入力と異なる場合は、機器の再生を開始して、ワンタッチプレイを実行するか、本機の電源を入れてHDMI入力を選び直してください。
- “ブラビアリンク”に対応していない機器を接続している場合は、HDMIメニューの「PASS THRU」が「ON」に設定されているか確認してください（47ページ）。



次のページへつづく

### 本機とテレビのスピーカーから音が出ない

- 選択した機器のHDMI端子に正しく接続されているか確認してください。
- HDMIメニューの「CTRL HDMI」が「CTRL ON」に設定されているか確認してください。
- HDMI接続では、スーパーオーディオCDを聞くことができません。
- 再生機器によっては、機器側でHDMI設定が必要な場合があります。接続した機器の取扱説明書をご覧ください。
- 特にDeep Colorや3D伝送の映像や音声を視聴するときは、High Speed HDMIケーブルで接続しているか確認してください。
- テレビがシステムオーディオコントロール機能に対応していることを確認してください。
- テレビからの入力を選択しているときに、本機に接続した機器の音声が聞こえない場合
  - 本機にHDMI接続した機器を視聴するときは、本機の入力をHDMIに切り換えてください。
  - テレビ放送を視聴するときは、テレビのチャンネルを切り換えてください。
  - テレビに接続した他の機器を視聴したい場合は、テレビを操作して、適切な機器または入力を選択してください。テレビの操作について詳しくは、テレビの取扱説明書をご覧ください。

## 映像

### テレビ画面に映像が出ない

- 映像機器の映像出力がテレビに接続されているか確認してください。
- テレビを他のオーディオ機器から離して設置してください。
- 選択した機器のHDMI端子に正しく接続されているか確認してください。
- 再生機器によっては、機器側で設定が必要な場合があります。接続した機器の取扱説明書をご覧ください。
- 特に1080pやDeep Color、3D伝送の映像や音声を視聴するときは、High Speed HDMIケーブルで接続しているか確認してください。

### 本機がスタンバイモードのとき、テレビから映像が出ない

- 本機がスタンバイモードになると、本機の電源が切れる前に最後に選択されていたHDMI入力から映像が出ます。視聴したい機器が、最後に選択されていたHDMI入力と異なる場合は、機器の再生を開始して、ワンタッチプレイを実行するか、本機の電源を入れてHDMI入力を選び直してください。
- “ブラビアリンク”に対応していない機器を接続している場合は、HDMIメニューの「PASS THRU」が「ON」に設定されているか確認してください（47ページ）。

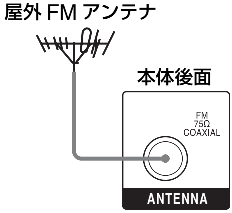
### テレビ画面に3D映像が出ない

- テレビおよび映像機器の仕様によっては、3D表示できない場合があります。

## ラジオ

### FM放送の受信状態が悪い

- 75 Ω同軸ケーブル（別売り）を使って、下図のように本機と屋外FMアンテナを接続してください。




### 放送局が受信できない

- アンテナがしっかりと接続されているか確認してください。必要に応じて、アンテナの向きを調節したり、屋外アンテナを使ったりしてください。
- 自動受信をしている場合に、受信状態が悪いことがあります。その場合はモノラル受信に変更してください（32ページ）。
- プリセットを使う場合、何も登録していない、または登録した放送局を消してしまった可能性があります。その場合は放送局を登録してください（33ページ）。

## リモコン

### リモコンで操作ができない

- リモコンを本機のリモコン受光部に向けてください。
- リモコンと本機の間にある障害物を取り除いてください。
- 電池が消耗している場合は、リモコンの電池を新しいものに交換してください。
- リモコンで正しい入力を選択したか確認してください。

## その他

### HDMI機器制御機能が機能しない

- HDMI接続を確認してください（22ページ）。
- HDMIメニューの「CTRL HDMI」が「CTRL ON」に設定されているか確認してください。
- 接続した機器がHDMI機器制御機能に対応していることを確認してください。
- 接続した機器のHDMI機器制御機能設定を確認してください。接続した機器の取扱説明書をご覧ください。
- HDMIで規格化されているCEC機能により、“ブラビアリンク”機能で操作できる機器や台数には以下のような制限があります。
  – 録画機器（ブルーレイディスクレコーダー、DVDレコーダーなど）：最大3台
  – 再生機器（ブルーレイディスクプレーヤー、DVDプレーヤーなど）：最大3台
  – チューナー関連機器：最大4台
  – AVアンプ（オーディオシステム）：最大1台

### HDMI機器制御機能を使っているときに、テレビのリモコンから接続した機器の操作ができない

- 接続した機器やテレビによっては、機器やテレビ側で設定が必要な場合があります。接続した機器やテレビの取扱説明書をご覧ください。
- 本機の入力を目的の機器に接続しているHDMI入力に切り換えてください。

## エラーメッセージ

本機が正しく動作していないとき、表示窓にエラーメッセージが表示されます。表示によって、本機の状態を確認することができます。問題が解決しない場合は、お近くのソニー製品を買い上げ店にお問い合わせください。
自動音場補正の測定中にエラーメッセージが表示された場合は、「エラーコードが表示されたときは」（29ページ）をご覧のうえ、表示に合った対応をしてください。

### PROTECTOR

スピーカーに異常な電流が流れている、音量が大きすぎる、または本機の上面が覆われており通風孔がふさがっています。数秒後に本機の電源が自動的に切れます。スピーカーの接続を確認し、通風孔をふさいでいるものを取り除いてください。
再度電源を入れ、音量を上げてください。

## 本機を初期設定状態に戻す（メモリーの消去）

この説明書の「故障かな？と思ったら」の処置をおこなっても問題が解決しない場合、本機のメモリーを消去して初期設定状態にしてください。すべての設定がお買い上げ時の状態に戻りますので、再設定が必要になります。

### 参照ページ

| リセットするもの | 参照ページ |
|---|---|
| すべての設定 | 26ページ |

# 保証書とアフターサービス

## 保証書

- この製品には保証書が添付されていますので、お買い上げの際お買い上げ店でお受け取りください。
- 所定事項の記入および記載内容をお確かめのうえ、大切に保存してください。
- 保証期間は、お買い上げ日より1年間です。

## アフターサービス

### 調子が悪いときはまずチェックを

この説明書をもう一度ご覧になってお調べください。

### それでも具合の悪いときはサービスへ

お買い上げ店、または添付の「ソニーご相談窓口のご案内」にあるお近くのソニーサービス窓口にご相談ください。

### 保証期間中の修理は

保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。詳しくは保証書をご覧ください。

### 保証期間経過後の修理は

修理によって機能が維持できる場合は、ご要望により有料修理させていただきます。

## 部品の保有期間について

当社では、ホームシアターシステムの補修用性能部品（製品の機能を維持するために必要な部品）を、製造打ち切り後8年間保有しています。

## 部品の交換について

この製品では、修理のために部品を交換する際に、旧部品を回収させていただく場合があります。あらかじめご了承ください。

## ご相談になるときは、次のことをお知らせください。

- 型名：HT-SS380
- 故障の状態：できるだけ詳しく
- 購入年月日：
- お買い上げ店：

# 主な仕様

### アンプ部

実用最大出力（非同時駆動、JEITA*）
フロント部：120 W + 120 W、3 Ω
センター部：120 W、3 Ω
サラウンド部：120 W + 120 W、3 Ω
サブウーファー部：120 W、3 Ω、60 Hz

* JEITA（電子情報技術産業協会）による測定値です。

入力
アナログ　入力感度：1 V/50 kΩ
デジタル（COAXIAL）　入力インピーダンス：75 Ω

### FMチューナー部

| | |
|---|---|
| 受信周波数 | 76.0 MHz～90.0 MHz（100 kHz単位） |
| アンテナ | FMワイヤーアンテナ |
| アンテナ端子 | 75 Ω、不均衡型 |

### その他

| | |
|---|---|
| 電源 | AC 100 V、50/60 Hz |
| 消費電力 | 電気用品安全法による表示：110 W |
| 消費電力（スタンバイモード時） | 0.3 W（HDMI機器制御機能がオフ（切）のとき） |
| 最大外形寸法（幅×高さ×奥行き） | 約430 mm× 65 mm× 306 mm 最大突起部を含む |
| 質量 | 約3.0 kg |

### スピーカー部

- **フロント／サラウンドスピーカー（SS-TSB105）**
- **センタースピーカー（SS-CTB102）**

フロント／サラウンドスピーカー
フルレンジ
センタースピーカー
フルレンジ、防磁型

その他

次のページへつづく

使用スピーカー
フロント／サラウンドスピーカー
55 mm×80 mm、コーンタイプ
センタースピーカー
30 mm×60 mm、コーンタイプ
エンクロージャー方式
フロント／サラウンドスピーカー
バスレフタイプ
センタースピーカー
アコースティックサスペンションタイプ
定格インピーダンス
3 Ω
最大外形寸法（幅×高さ×奥行き）
フロント／サラウンドスピーカー
約85 mm×220 mm×95 mm（足含む）
センタースピーカー
約315 mm×55 mm×60 mm（足含む）
質量
フロントスピーカー
約0.46 kg（足含む）
センタースピーカー
約0.31 kg（足含む）
サラウンドスピーカー
約0.53 kg（足含む）
スピーカーコードの長さ
フロントスピーカー
約2.5 m
センタースピーカー
約2.0 m
サラウンドスピーカー
約10.0 m

**• サブウーファー（SS-WSB103）**

使用スピーカー　160 mm、コーンタイプ
エンクロージャー方式
バスレフタイプ
定格インピーダンス
3 Ω
最大外形寸法（幅×高さ×奥行き）
約260 mm×265 mm× 270 mm（足含む）
質量　約3.6 kg（足含む）
スピーカーコードの長さ
約3.0 m

eco 省エネルギー

- デジタルアンプS-Master搭載によりアンププブロックの電力効率を85%以上に改善。
- オートオフ機能。

本機は「JIS C61000-3-2適合品」です。
仕様および外観は、改良のため、予告なく変更することがありますが、ご了承ください。

# 索引

よくあるお問い合わせ、窓口受付時間などは
ホームページをご活用ください。 **http://www.sony.co.jp/support**


**使い方相談窓口**

フリーダイヤル・・・・・・・・・・・・・・・・ **0120-333-020**
携帯電話・PHS・一部のIP電話・・・ **0466-31-2511**

**修理相談窓口**

フリーダイヤル・・・・・・・・・・・・・・・・ **0120-222-330**
携帯電話・PHS・一部のIP電話・・・ **0466-31-2531**

※取扱説明書・リモコン等の購入相談はこちらへお問い合わせください。

**FAX**（共通） 0120-333-389


左記番号へ接続後、
最初のガイダンスが
流れている間に
「306」+「#」
を押してください。
直接、担当窓口へ
おつなぎします。


ソニー株式会社　〒108-0075 東京都港区港南1-7-1



* 4 2 6 2 2 0 1 0 2 * (1)

Sony Corporation　Printed in Malaysia